

(様式第10)

熊大病医事第154号

厚生労働大臣 殿

令和 7 年 10 月 1 日

開設者名 国立大学法人熊本大学

学長 小川 久雄

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

熊本大学病院

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
電話(096)342-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
<input type="radio"/> 1呼吸器内科	<input type="radio"/> 2消化器内科
<input type="radio"/> 5神経内科	<input type="radio"/> 6血液内科
<input type="radio"/> 9感染症内科	<input type="radio"/> 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2)外科

外科					有		
外科と組み合わせた診療科名							
<input type="radio"/>	1呼吸器外科	<input type="radio"/>	2消化器外科	<input type="radio"/>	3乳腺外科	<input type="radio"/>	4心臓外科
	5血管外科	<input type="radio"/>	6心臓血管外科		7内分泌外科	<input type="radio"/>	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

<input type="radio"/>	1精神科	<input type="radio"/>	2小児科	<input type="radio"/>	3整形外科	<input type="radio"/>	4脳神経外科
<input type="radio"/>	5皮膚科	<input type="radio"/>	6泌尿器科	<input type="radio"/>	7産婦人科	<input type="radio"/>	8産科
	9婦人科	<input type="radio"/>	10眼科	<input type="radio"/>	11耳鼻咽喉科	<input type="radio"/>	12放射線科
<input type="radio"/>	13放射線診断科	<input type="radio"/>	14放射線治療科	<input type="radio"/>	15麻酔科	<input type="radio"/>	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4)歯科

歯科				有	
歯科と組み合わせた診療科名					
<input type="radio"/>	1小児歯科	<input type="radio"/>	2矯正歯科	<input type="radio"/>	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	移植外科	3	形成外科	4	リハビリテーション科	5	病理診断科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50				795	845

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	537	122	563.5
歯科医師	30	4	30.8
薬剤師	65	2	66.1
保健師	0	0	0
助産師	31	2	32.5
看護師	832	36	857
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	13	0	13

職種	員数
看護補助者	84
理学療法士	21
作業療法士	9
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	27
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	49

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査技師	74	
臨床検査	衛生検査技師	0
その他	0	
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	8	
その他の技術員	22	
事務職員	300	
その他の職員	93	

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	93	眼科専門医	10
外科専門医	48	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	3	放射線科専門医	30
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	13
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	24
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	25
産婦人科専門医	15	救急科専門医	6
合計			328

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (平井 俊範) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

- ・令和3年4月～令和6年3月 医療安全管理委員会委員(医療放射線安全管理責任者)
- ・令和6年4月～令和6年5月 医療安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
- ・令和6年6月～ 医療の質・安全管理委員会委員長(熊本大学病院長)
- ・令和6年4月～ 医療安全対策に関するカンファレンス議長(熊本大学病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	635.8 人	19.5 人	655.4 人
1日当たり平均外来患者数	1,504.8 人	71.7 人	1,576.6 人
1日当たり平均調剤数	2,021.3 剤		

必要医師数	155	人
必要歯科医師数	7	人
必要薬剤師数	22	人
必要(准)看護師数	383	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	15 床	心電計	有
集中治療室	557 m ²	SRC	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積 310 m ²		病床数 24	床	
	[移動式の場合]	台数 24	台			
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積 53	m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	591 m ²	SRC	(主な設備)	汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置		
細菌検査室	137 m ²	SRC	(主な設備)	自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置		
病理検査室	518 m ²	SRC	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置		
病理解剖室	187 m ²	SRC	(主な設備)	病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ		
研究室	112 m ²	SRC	(主な設備)	クリオスタッフ、遠心機、オートクレーブ		
講義室	222 m ²	SRC	室数 4 室	収容定員 82 人		
図書室	90 m ²	SRC	室数 2 室	蔵書数 6,500 冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	103.0 %	逆紹介率	127.2 %
算出 根拠	A:紹介患者の数	15,018	人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,894	人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	1,904	人
	D:初診の患者の数	16,430	人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
----	----	---------------	------	----------	---------------

後 信	九州大学病院 医療安全管理部	<input type="radio"/>	医療安全管理に関する 識見を有する者	無	1
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する識見を有 する者	無	1
木崎 千恵子	一般社団法人 日本癌治療学会		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
熊本大学ホームページによる公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロン α 皮下投与及びジドブシン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	0人
反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	3人
生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	0人
シクロホスファミド静脈内投与療法	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	7種類
取扱い患者数の合計(人)	3人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注)2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

他の高度医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	16	86	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
2	筋萎縮性側索硬化症	131	87	腸管神経節細胞僅少症	1
3	脊髄性筋萎縮症	10	88	クリオピリン関連周期熱症候群	1
4	進行性核上性麻痺	93	89	若年性特発性関節炎	14
5	パーキンソン病	248	90	ブラウ症候群	2
6	大脳皮質基底核変性症	27	91	筋ジストロフィー	38
7	シャルコー・マリー・トゥース病	5	92	脊髄空洞症	3
8	重症筋無力症	215	93	遺伝性ジストニア	5
9	多発性硬化症／視神經脊髄炎	150	94	脳表ヘモジデリン沈着症	3
10	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	53	95	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	9
11	封入体筋炎	15	96	前頭側頭葉変性症	10
12	クロウ・深瀬症候群	5	97	先天性無痛無汗症	1
13	多系統萎縮症	61	98	アイカルディ症候群	1
14	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	117	99	神経細胞移動異常症	2
15	ライソゾーム病	21	100	先天性大脑白質形成不全症	1
16	副腎白質ジストロフィー	2	101	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	9
17	ミトコンドリア病	22	102	レノックス・ガストー症候群	4
18	もやもや病	99	103	ウエスト症候群	2
19	プリオン病	4	104	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1
20	進行性多巣性白質脳症	1	105	結節性硬化症	16
21	HTLV-1関連脊髄症	25	106	色素性乾皮症	1
22	特発性基底核石灰化症	3	107	先天性魚鱗癬	1
23	全身性アミロイドーシス	402	108	家族性良性慢性天疱瘡	2
24	遠位型ミオパチー	2	109	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	47
25	神経線維腫症	48	110	特発性後天性全身性無汗症	8
26	天疱瘡	33	111	眼皮膚白皮症	1
27	表皮水疱症	3	112	弾性線維性仮性黃色腫	3
28	膿疱性乾癬(汎発型)	23	113	マルファン症候群	11
29	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	114	エーラス・ダンロス症候群	5
30	中毒性表皮壞死症	2	115	ウィルソン病	8
31	高安動脈炎	29	116	ウェルナー症候群	2
32	巨細胞性動脈炎	11	117	プラダード・ウイリ症候群	1
33	結節性多発動脈炎	20	118	1p36欠失症候群	1
34	顕微鏡的多発血管炎	66	119	22q11.2欠失症候群	1
35	多発血管炎性肉芽腫症	27	120	単心室症	1
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	33	121	ファロー四徴症	1
37	悪性関節リウマチ	7	122	両大血管右室起始症	1
38	バージャー病	2	123	アルポート症候群	1
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	124	急速進行性糸球体腎炎	4
40	全身性エリテマトーデス	460	125	抗糸球体基底膜腎炎	4
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	282	126	一過性ネフローゼ症候群	87
42	全身性強皮症	307	127	一過性膜性増殖性糸球体腎炎	1
43	混合性結合組織病	61	128	紫斑病性腎炎	14
44	シェーグレン症候群	141	129	先天性腎性尿崩症	1
45	成人スチル病	18	130	オスラー病	17
46	再発性多発軟骨炎	5	131	閉塞性細気管支炎	4
47	ペーチェット病	92	132	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	11
48	特発性拡張型心筋症	122	133	副甲状腺機能低下症	6
49	肥大型心筋症	86	134	偽性副甲状腺機能低下症	3
50	拘束型心筋症	2	135	副腎皮質刺激ホルモン不応症	2
51	再生不良性貧血	40	136	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3
52	自己免疫性溶血性貧血	4	137	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	16	138	フェニルケトン尿症	6
54	特発性血小板減少性紫斑病	48	139	プロピオン酸血症	1
55	原発性免疫不全症候群	5	140	メチルマロン酸血症	2
56	IgA腎症	111	141	グルコーストランスポーター1欠損症	1
57	多発性囊胞腎	71	142	尿素サイクル異常症	4
58	黄色靭帯骨化症	40	143	ポルフィリン症	4
59	後縦靭帯骨化症	69	144	肝型糖原病	7
60	広範脊柱管狭窄症	8	145	脳膜黄色腫症	2
61	特発性大腿骨頭壊死症	77	146	家族性地中海熱	3
62	下垂体性ADH分泌異常症	27	147	強直性脊椎炎	14
63	下垂体性TSH分泌亢進症	5	148	軟骨無形成症	1
64	下垂体性PRL分泌亢進症	51	149	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
65	クッシング病	15	150	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
66	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1	151	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	3
67	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	55	152	後天性赤芽球病	5
68	下垂体前葉機能低下症	297	153	エプスタイン症候群	3
69	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2	154	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2
70	先天性副腎皮質酵素欠損症	16	155	クロンカイト・カナダ症候群	2
71	アジソン病	1	156	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
72	サルコイドーシス	116	157	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	1
73	特発性間質性肺炎	152	158	総排泄腔外反症	1
74	肺動脈性肺高血圧症	50	159	胆道閉鎖症	12
75	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	41	160	遺伝性脾炎	1
76	リンパ脈管筋腫症	9	161	IgG4関連疾患	11
77	網膜色素変性症	21	162	黄斑ジストロフィー	4
78	バッド・キアリ症候群	2	163	アッシャー症候群	2
79	特発性門脈圧亢進症	7	164	好酸球性副鼻腔炎	44
80	原発性胆汁性胆管炎	90	165	シトリリン欠損症	2
81	原発性硬化性胆管炎	13	166	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
82	自己免疫性肝炎	40	167	特発性多中心性キャッスルマン病	11
83	クローン病	197	168	進行性家族性肝内胆汁うつ滯症	2
84	潰瘍性大腸炎	307	169	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1
85	好酸球性消化管疾患	9			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	169
合計患者数(人)	6,165

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・医療DX推進体制整備加算(医科)	・感染対策向上加算1
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・感染対策向上加算1 指導強化加算
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・患者サポート体制充実加算
・入院栄養管理体制加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・病棟薬剤業務実施加算1 薬剤業務向上加算
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間看護体制加算)	・入退院支援加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・入院時支援加算
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料5
・放射線治療病室管理加算1 治療用放射性同位元素による治療の場合	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・放射線治療病室管理加算2 密封小線源による治療の場合	・ハイケアユニット入院医療管理料1 早期離床・リハビリーション加算
・緩和ケア診療加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料 無菌治療管理加算1
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料 養育支援体制加算

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウィルス疾患指導料 注2の加算	・療養・就労両立支援指導料 相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注2	・がん治療連携計画策定料
・外来栄養食事指導料の注3	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・ハイリスク妊娠婦連携指導料1
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・ハイリスク妊娠婦連携指導料2
・糖尿病合併症管理料	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料イ	・診療情報提供料 検査・画像情報提供加算
・がん患者指導管理料ロ	・電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料2
・外来緩和ケア管理料	・精神科退院時共同指導料2
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・婦人科特定疾患治療管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料1	・染色体検査 注2 流産検体を用いた絨毛検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・骨髓微小残存病変量測定
・二次性骨折予防継続管理料3	・BRCA1／2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・下肢創傷処置管理料	・BRCA1／2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・外来放射線照射診療料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・HPV核酸検出	・画像診断管理加算1
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・画像診断管理加算4
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・遠隔画像診断
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)
・国際標準検査管理加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く)
・遺伝カウンセリング加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・コンピューター断層撮影(CT撮影)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・冠動脈CT撮影加算
・時間内歩行試験	・磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)
・シャトルウォーキングテスト	・心臓MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・乳房MRI撮影加算
・ヘッドアップティルト試験	・小児鎮静下MRI撮影加算
・人工臍臓検査	・頭部MRI撮影加算
・皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・脳波検査判断料1	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・全視野精密網膜電図	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ロービジョン検査判断料	・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・内服・点滴誘発試験	・運動器リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・センチネルリンパ節生検(片側)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・経頸静脉的肝生検	・呼吸器リハビリテーション料の初期加算及び急性期リハビリテーション加算
・経気管支凍結生検法	・がん患者リハビリテーション料

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知症患者リハビリテーション料	・椎間板内酵素注入療法
・集団コミュニケーション療法料	・頭蓋内腫瘍摘出術 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・通院・在宅精神療法 療養生活継続支援加算	・内視鏡下脳腫瘍生検術
・精神科作業療法	・内視鏡下脳腫瘍摘出術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・医療保護入院等診療料	・角結膜悪性腫瘍切除術
・処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・人工腎臓 慢性維持透析を行った場合1	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・導入期加算2	・網膜再建術
・透析液水質確保加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・慢性維持透析濾過加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・血漿交換法 注2 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・人工中耳植込術
・血漿交換法 注3 移植後抗体関連型拒絶反応治療	・人工内耳植込術
・人工胰臓療法	・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ストーマ処置 ストーマ合併加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・一酸化窒素吸入療法	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚悪性腫瘍切除術 センチネルリンパ節加算	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒によるもの)
・皮膚移植術(死体)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(一連につき) (乳房(再建手術)の場合に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術 及び骨悪性腫瘍手術 処理骨再建加算	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。) (同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る)))	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードの場合)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いる場合又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・経静脈電極抜去術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・経皮的下肢動脈形成術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下胆囊悪性腫瘍手術(胆囊床切除を伴うもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮の大動脈弁置換術)	・生体部分肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・同種死体肝移植術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・不整脈手術 4 左心耳閉鎖術 □ 経カテーテル的手術によるもの	・腹腔鏡下脾中央切除術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術(内視鏡支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・生体部分小腸移植術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体小腸移植術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術 (胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下副腎摘出手術及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・レーザー機器加算(医科)
・腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(II)
・同種死体腎移植術	・周術期薬剤管理加算
・生体腎移植術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・人工尿道括約筋植込・置換術	・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算
・精巢内精子採取術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療(IMRT)の1回線量増加加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下仙骨臑固定術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下仙骨臑固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下臑式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・病理診断管理加算2	・入院時食事療養費(1)
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・看護職員待遇改善評価料	・
・外来・在宅ベースアップ評価料(I)	・
・入院ベースアップ評価料	・
・歯科治療時医療管理料	・
・医療機器安全管理料(歯科)	・
・口腔細菌定量検査	・
・有床義歯咀嚼機能検査1の口	・
・有床義歯咀嚼機能検査2の口	・
・咀嚼能力検査	・
・咬合圧検査	・
・精密触覚機能検査	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・がん患者リハビリテーション料(歯科)	・
・手術用顕微鏡加算	・
・口腔粘膜処置	・
・手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	・
・手術時歯根面レーザー応用加算	・
・広範囲頸骨支持型装置埋入手術	・
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・
・レーザー機器加算(歯科)	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・う蝕歯無痛的窓洞形成加算	・
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー(1歯につき)	・
・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	104回/年	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数(例)	16
	剖検率(%)	8.6

1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で印を付)。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	臨床現場での多重課題における意思決定要因の解明	松井 邦彦	総合診療科	200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
2	EGFR変異肺癌における小細胞肺癌への形質転換によるTKI耐性獲得機序の検索	吉賀 教将	乳腺・内分泌外科	1,200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
3	膠芽腫における遺伝子「翻訳」調節機構の解明と治療への応用	山本 隆広	脳神経外科	1,005,710	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
4	心臓CTを用いた心筋組織性状評価:心アミロイドーシス診断ストラテジーの確立	尾田 済太郎	中央放射線部	614,920	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
5	神経型ゴーシュ病における新規の病態解析と治療薬の開発	城戸 淳	小児科	116,820	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
6	ドミノ肝移植レシピエントの心機能評価を利用した心アミロイドーシス早期診断法の開発	宇宿 弘輝	中央検査部	582,030	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
7	電子カルテ情報を利用した血液培養実施状況及び菌血症患者予後の網羅的解析	岡本 真一郎	新興感染症対策寄附講座	337,250	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
8	急性骨髄性白血病に特異的な代謝を標的とした新規薬剤の開発	興梠 健作	小児科	1,001,833	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
9	肺癌に対する放射線療法と免疫療法の有効性の関連解析および最適な治療法の開発	坂田 晋也	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,357,126	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
10	次元コーンビームCTを利用した体内線量分布計算システムの確立	下東 吉信	医療技術部診療放射線技術部門	269,667	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
11	粒子状物質による急性心筋梗塞や院外心停止の発症および発症メカニズムの解明	小島 淳	心血管治療先端医療寄附講座	161,506	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
12	ALアミロイドーシスにおける線溶系マーカーPAPの重要性とメカニズム解析	上野 志貴子	輸血・細胞治療部	557,411	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
13	食物繊維サプリメントによる腸内細菌叢と代謝産物TMAO、動脈硬化改善効果の検討	松澤 泰志	心臓リハビリテーション寄附講座	2,513,672	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
14	手根管症候群手術症例を対象としたアミロイドーシスの早期発見に関する研究	高潮 征爾	心血管治療先端医療寄附講座	577,316	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
15	成人T細胞白血病におけるプロウイルス、ゲノム解析に関連する免疫学的研究	野坂 生郷	がんセンター	1,557,579	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
16	骨髄異形成症候群に対する治療標的としてのSALL4の機能的解析	立津 央	医療の質・安全管理部	755,399	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
17	拡張不全心不全(HFpEF)における新規線維化関連因子の関与の検討	山本 正啓	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	376,729	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
18	強皮症関連肺高血圧症における病態細分化と治療反応群の特定についての検討	平川 今日子	循環器内科	751,397	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
19	左室リバースリモデリングを目指したHFrEFの新規治療ガイド指標の確立	花谷 信介	循環器内科	599,667	(補委)	独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
20	マクロファージ増殖抑制を介したGPR43による糖尿病心筋症発症抑制の検討	花谷 聰子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,238,592	補委 独立行政法人日本学術振興会
21	子どもの生活習慣改善に導く個別化研究	上土井貴子	小児科	2,303,139	補委 独立行政法人日本学術振興会
22	早産児血液炎症マーカーと母体情報の組み合わせによる胎児炎症反応症候群評価法の開発	岩井 正憲	総合周産期母子医療センター	817,069	補委 独立行政法人日本学術振興会
23	高齢心不全患者のフレイルに対する鉄補充療法の効果の検証	松澤 泰志	心臓リハビリテーション寄附講座	100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
24	血管内皮機能に着目した肺動脈性肺高血圧症への新たな治療法確立のための研究	山本 英一郎	循環器内科	989,667	補委 独立行政法人日本学術振興会
25	酪酸菌製剤と免疫チェックポイント阻害剤を併用した新規肺がん治療戦略の開発	富田 雄介	呼吸器内科	1,399,266	補委 独立行政法人日本学術振興会
26	糸球体機能における恒常性維持とその破綻の分子基盤解明	森永 潤	総合臨床研究部研究展開センター	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
27	セリンプロテアーゼによる尿濃縮メカニズムの解明	安達 政隆	腎・血液浄化療法センター	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
28	クローン性造血を介した炎症性免疫疾患の機序の解明	平田 真哉	膠原病内科	2,901,870	補委 独立行政法人日本学術振興会
29	HIV感染におけるケモカイン受容体の動態解析とその多量体形成を標的とした薬剤開発	中田 浩智	感染免疫診療部	2,541,317	補委 独立行政法人日本学術振興会
30	食道癌手術後の呼吸器合併症減少を目指した革新的リスク評価法の確立	吉田 直矢	総合臨床研修センター	1,246,189	補委 独立行政法人日本学術振興会
31	CMS 2/3 大腸癌に対する代謝関連蛋白阻害剤を用いた新規治療法の開発	澤山 浩	消化器外科	372,246	補委 独立行政法人日本学術振興会
32	妊娠糖尿病における血管内皮障害メカニズムの解明 DPP-4阻害薬の治療戦略	杉田 道子	産科麻酔学寄附講座	1,163,604	補委 独立行政法人日本学術振興会
33	患者検体由来膠芽腫オルガノイド培養による膠芽腫個別化治療法の開発	竹崎 達也	脳神経外科	1,410,228	補委 独立行政法人日本学術振興会
34	加齢による音声障害に対するSirt1を介した新たな治療法の開発	宮丸 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,568,674	補委 独立行政法人日本学術振興会
35	疾患マーカーとしての爪中microRNAの検討	伊方 敏勝	皮膚科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
36	口腔癌の可塑的エピゲノム機構の解明	中元雅史	歯科口腔外科	1,559,622	補委 独立行政法人日本学術振興会
37	頭頸部癌の緩和的放射線治療における臨床レディオミクス治療効果予測システムの開発	甲斐 祐大	医療技術部診療放射線技術部門	1,362,586	補委 独立行政法人日本学術振興会
38	網羅的ゲノム・エピゲノムプロファーリングによる表在型食道癌新規リスク因子の検索	具嶋 亮介	光学医療診療部	2,741,849	補委 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
39	エネルギー代謝補酵素に着目した胆道癌・膵癌化学療法抵抗性機序の解明	長岡 克弥	消化器内科	2,326,206	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
40	新規デバイスを用いた血液内cfDNA解析による食道癌化学放射線療法の効果予測	山崎 明	総合臨床研究部研究倫理センター	2,231,147	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
41	低分子化合物で誘導したヒト肝前駆細胞を用いた先天性肝代謝疾患モデルの創出	稻田 浩気	総合臨床研究部研究シーズ探索センター	3,105,577	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
42	急性腎障害に対するセリンプロテアーゼを標的とした新規治療法の開発	中川 輝政	腎・血液浄化療法センター	1,000,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
43	HBZ-宿主タンパク質結合のATL発がん機序における役割の解明	樋口 悠介	感染免疫診療部	259,612	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
44	マクロファージのヘモグロビン処理と卵巣チオコレート嚢胞の炎症・発がんとの関連	楠木 槟	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	3,257,374	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
45	ヒト早発卵巣不全の発症に関する減数分裂制御遺伝子の探索	小寺 千聰	産科	1,598,346	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
46	災害時の洗面所環境・機能確保のための事業継続計画とその実践に関する研究	内藤 久貴	災害医療教育研究センター	1,148,028	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
47	マレーシアボルネオ島で流行するデング熱の監視と大規模疫学的解析	森 大輔	医療技術部臨床検査技術部門	1,793,187	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
48	生命予後因子CYLDの病態解析を突破口とした難治性卵巣癌の新規薬物療法の開発	三宅 俊介	薬剤部	1,865,443	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
49	インドキシル硫酸の產生・蓄積阻害による慢性腎臓病血栓塞栓症に対する予防戦略の確立	成田 勇樹	薬剤部	1,485,004	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
50	がん免疫の個人差をリンパ節マクロファージの観点から明らかにする	塩田 拓也	病理部	670,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
51	小細胞肺がんでのmTOR・NOTCH1・YAP1の相互関係解析と抗がん剤耐性克服の検証	藤野 孝介	呼吸器外科	100,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
52	血漿Lyso-Gb3と血管内皮細胞解析を駆使した新しいファブリ病診断システムの構築	城戸 淳	小児科	150,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
53	ATTRwt型心アミロイドーシスの心房性不整脈に対するアブレーション治療法の確立	金澤 尚徳	不整脈先端医療寄附講座	2,412,313	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
54	生物学的製剤を用いた粘液栓に対する治療アプローチの確立	穴井 盛靖	呼吸器内科	513,043	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
55	尿中セリンプロテアーゼによるENaC、AQP2活性化機序の解明と臨床応用	柿添 豊	総合臨床研修センター	1,200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
56	遺伝子改変iPS細胞由来ミエロイドライインを用いた進行期メラノーマの免疫療法	宮下 梓	総合臨床研究部研究展開センター	1,100,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
57	内在性Scx/Sox9共陽性細胞の動員促進を介した腱板修復促進治療の開発	徳永 琢也	整形外科	100,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
58	転写因子Stat3の阻害薬の大規模スクリーニングと慢性炎症及び関節破壊の治療法の確立	宮本 佳奈	整形外科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
59	加齢による腱板修復能の低下メカニズムの解析および腱板修復促進治療への応用	唐杉 樹	整形外科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
60	分子基盤に基づいた HPV 関連子宮頸部腺癌の治療選択基準の提唱—子宮温存のために	三上 芳喜	病理部	2,750,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
61	生体イメージングと網羅的解析によるミトコンドリア面からみた線内障とその治療法探索	瀧原 祐史	眼科	1,413,816	補委 独立行政法人日本学術振興会
62	カルシウムとミトコンドリアの形態制御は口腔癌における治療抵抗性に関与するのか?	川原 健太	歯科口腔外科	1,346,908	補委 独立行政法人日本学術振興会
63	乳癌における治療後免疫微小環境の変化と新たな標的分子の探索	宮里 祐子	病理部	2,860,400	補委 独立行政法人日本学術振興会
64	膠芽腫における免疫微小環境の理解と新たな標的分子の探索	甲斐 恵太郎	脳神経外科	1,089,886	補委 独立行政法人日本学術振興会
65	乳癌術前内分泌療法の効果予測因子の臨床的意義と機能解析	後藤 理沙	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,266,924	補委 独立行政法人日本学術振興会
66	長期高脂肪食負荷によるインスリン抵抗性と肝線維化におけるマクロファージ増殖の意義	前田 沙梨恵	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,096,069	補委 独立行政法人日本学術振興会
67	高齢者の小径線維ニューロパチーに潜む野生型ATTRアミロイドーシスの解析	中原 圭一	脳神経内科	1,660,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
68	脳髄膜リンパ管に着目した、ATTR型脳アミロイド血管症の病態解析	野村 隼也	脳神経内科	1,248,800	補委 独立行政法人日本学術振興会
69	デジタルオミクス・空間的シングルセル解析による痔瘻先行型クローン病診断体系の探索	古田 陽輝	光学医療診療部	2,010,679	補委 独立行政法人日本学術振興会
70	口腔細菌・代謝物解析による食道癌内視鏡切除後再発・頭頸部癌重複の新規危険因子同定	松野 健司	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	2,407,745	補委 独立行政法人日本学術振興会
71	腫瘻微小環境の空間的オミックス解析を用いた肝細胞癌に対する複合免疫療法の効果予測	徳永 奠之	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,708,700	補委 独立行政法人日本学術振興会
72	Exosomal miRNA・細菌叢解析が拓く肝癌免疫関連有害事象予測バイオマーカーの確立	樽原 哲史	がんセンター	1,609,255	補委 独立行政法人日本学術振興会
73	血栓形成能及び鎮静深度を用いた心房細動治療後の無症候性脳塞栓予測モデルの開発	金子 祥三	不整脈先端医療寄附講座	1,050,880	補委 独立行政法人日本学術振興会
74	肺線維化を修飾する”腸肺軸(the gut-lung axis)”を解明するための基盤研究	岡林 比呂子	感染症対応実践学寄附講座	934,461	補委 独立行政法人日本学術振興会
75	皮膚悪性腫瘻の悪性化メカニズムの解明	金澤 早織	皮膚科	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
76	NAP1L4を標的とした新規短鎖核酸を用いたメラノーマに対する治療開発	水橋 覚	皮膚科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
77	全身性強皮症におけるcircRNAの役割の解明	島田 秀一	褥瘡対策室	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
78	HTLV-1感染造血幹細胞の細胞分化異常とATL発癌機序の解明	吉田 梨愛	感染症対応実践学寄附講座	3,200,840	補委 独立行政法人日本学術振興会
79	miR-222のβ細胞増殖制御機序の解析と糖尿病病態マーカーとしての意義	小野 薫	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,530,143	補委 独立行政法人日本学術振興会
80	大腸癌の抗腫瘍免疫におけるニュートリエピジェネティクスについて	大内 薫子	消化器外科	2,141,169	補委 独立行政法人日本学術振興会
81	中咽頭扁平上皮癌におけるYes-associated protein1(YAP1)の機能解析	齋藤 陽元	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,292,312	補委 独立行政法人日本学術振興会
82	毛様体無色素上皮細胞のCD44経路と眼圧制御に関する研究	松村 智世	眼科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
83	口腔扁平上皮癌に特有な腫瘍微小環境における抗腫瘍免疫応答の解明	岩本(高島) 明日香	歯科口腔外科	3,463,706	補委 独立行政法人日本学術振興会
84	分娩のエピゲノム記憶に基づいた子宮頸管熟化機構の解明	中村 美和	婦人科	2,212,930	補委 独立行政法人日本学術振興会
85	アミロイド線維の立体構造解析から紐解くTTRアミロイドーシスの病態解明	水谷 浩徳	脳神経内科	2,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
86	拘縮と廃用性筋力低下の問題を解決に導く次世代型療養支援体系の構築	掃本 誠治	心血管治療先端医療寄附講座	30,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
87	疲労度遷移ネットワークを用いた子どもの抗疲労介入因子の同定	上土井貴子	小児科	300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
88	心腎連関におけるインドキシル硫酸及び産生責任酵素Sult1a1の毒性学的役割究明	齋藤 秀之	薬剤部	3,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
89	CYLD依存的形質転換が導く分子標的薬感受性向上を軸とした治療不応癌患者への治療提供	城野 博史	薬剤部	4,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
90	肝移植時の好中球動態と癌転移促進メカニズムの解析	本田 正樹	小児外科・移植外科	3,750,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
91	行動指標に着目したVR版HIV関連神経認知障害(HAND)スクリーニング検査の開発	中田 浩智	感染免疫診療部	70,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
92	小細胞肺癌の腫瘍内heterogeneityについて	藤野 孝介	呼吸器外科	200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
93	遺伝性胃癌臨床検体を用いた上部胃癌発癌メカニズムの解明と革新的治療法の確立	岩槻 政晃	消化器癌先端治療開発学寄附講座	133,550	補委 独立行政法人日本学術振興会
94	Gene signatureによる肺癌化学療法の治療効果予測及び新規治療標的の検証	中川 茂樹	消化器癌先端治療開発学寄附講座	1,250,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
95	新規線維化関連タンパクHE4の左室収縮保持型心不全における役割解明	花谷 信介	循環器内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
96	浸透圧応答転写因子NFAT5の加齢に伴う腎障害の発症・進展における意義	泉 裕一郎	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,100,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
97	急性骨髄性白血病におけるT細胞関連経路活性化による発がん機構の解明	岩永 栄作	感染症対応実践学寄附講座	1,400,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
98	抗体補体療法下のPNH血小板異常と血栓メカニズムの解析	上野 志貴子	輸血・細胞治療部	800,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
99	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)におけるPU.1発現低下の意義	立津 央	医療の質・安全管理部	1,200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
100	老化血小板を用いた肝疾患における新規治療法確立を目指した基礎研究	内場 光浩	輸血・細胞治療部	50,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
101	消化器癌における腫瘍微小環境を標的としたRadiogenomics解析	小澄 敬祐	消化器癌先端治療開発学寄附講座	1,000,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
102	がん幹細胞能維持と免疫回避微小環境を誘導する機構解明と新規治療法の開発	林 洋光	消化器外科	170,851	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
103	小細胞肺癌における薬物治療中の分子発現パターンモニタリングによる個別化医療の開発	藤野 孝介	呼吸器外科	1,600,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
104	卵巣癌の大網転移における癌幹細胞とニッチのクロストークに関する分子機構の解明	本原 剛志	婦人科	1,050,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
105	シングルセル解析による緑内障濾過手術後の線維化メカニズムの解明	小島 祥	眼科	1,200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
106	ICPC-3日本語版の開発	高柳 宏史	地域医療支援センター	200,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
107	心臓手術患者に特化した遠隔期成績の予測を目指した心リハ評価ツールの開発	荒木 直哉	心臓血管外科	850,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
108	新しい概念「腸管フレイル」の循環器疾患、入院関連機能障害における役割	松澤 泰志	心臓リハビリテーション寄附講座	1,500,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
109	PKGの酸化型構造捕捉と生体情報を用いた交感神経活動の可視化による高精度医療の実現	中村 太志	医療情報経営企画部	500,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
110	粒子状物質の構成成分による非感染性疾患の発症および病態進行のメカニズム	小島 淳	心血管治療先端医療寄附講座	2,000,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
111	泌尿器系癌における免疫微小環境の変化を原発巣とリンパ節の二面から解析する	穴見 俊樹	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,000,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
112	高感度トランスサイレチンアミロイド増幅技術を用いた革新的早期診断法の開発	水谷 浩徳	脳神経内科	2,100,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
113	軟口蓋所見を活用した咽頭・食道扁平上皮癌の早期発見、および予防に関する探索研究	脇 幸太郎	消化器内科	1,300,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会
114	酸化ストレスに起因した代謝性機能障害に伴う脂肪性肝疾患サルコペニア発症機序の解明	瀬戸山 博子	消化器内科	1,800,000	(補委)	独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
115	拡張不全心不全(HFpEF)における新規線維化関連因子の関与の検討	山本 正啓	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
116	ミトコンドリアバイオジェネシス制御による動脈硬化進展抑制機序の解明	西田 彩子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
117	慢性腎臓病の心血管合併症進展に果たすCalprotectinの病態的意義の解明	神吉 智子	腎臓内科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
118	肺間質領域のSUVmaxが示す病的微小環境の代謝活性と間質性肺炎急性増悪との関連の解明	赤池 公孝	地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
119	VCP/p97を標的とした多発性骨髄腫治療薬の開発	西村 直	新興感染症対策寄附講座	1,500,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
120	成人先天性心疾患(ACHD)に対する心エコーミュレータ開発によるACHD診療拡充	尾池 史	総合臨床研修センター	2,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
121	社会的孤立に伴うオキシトシン系の変化とオキシトシンの鎮痛作用の検討	小松 修治	麻酔科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
122	PRPによる腱板修復術後のScx/Sox9共陽性細胞を介した修復促進機序の解明	井手尾 勝政	リハビリテーション部	1,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
123	ウイルス学的・免疫学的アプローチによるATL発症予測法確立と発症予防戦略の開発	山田 麻美	血液内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
124	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	米村 雄士	輸血・細胞治療部	400,000	補委 厚生労働省
125	スモンに関する調査研究	中原 圭一	脳神経内科	800,000	補委 厚生労働省
126	肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	瀬戸山 博子	消化器内科	500,000	補委 厚生労働省
127	指標等を活用した地域の実情に応じた肝炎対策均てん化の促進に資する研究	瀬戸山 博子	消化器内科	3,000,000	補委 厚生労働省
128	HTLV-1総合対策進捗の現状把握と「普及・啓発・相談対応」の改善・強化のための課題把握とその解決策の検討	野坂 生郷	がんセンター	100,000	補委 厚生労働省
129	高チロシン血症1型	松本 志郎	新生児学寄附講座	600,000	補委 国立国際医療研究センター
130	直腸癌局所再発	宮本 裕士	消化器癌先端治療開発学寄附講座	205,030	補委 国立がん研究センター
131	LUNAR-1の有用性検討	宮本 裕士	消化器癌先端治療開発学寄附講座	203,055	補委 九州大学
132	局所進行直腸癌	宮本 裕士	消化器癌先端治療開発学寄附講座	101,539	補委 横浜市立大学
133	BRAF V600E	宮本 裕士	消化器癌先端治療開発学寄附講座	401,785	補委 国立がん研究センター

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
134	デュシェンヌ型筋ジストロフィーを対象とした新たな患者レジストリを構築するための研究(Remudy-DMD)	小篠 史郎	小児科	22,451	補助 委託 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
135	再発又は難治性の成人T細胞白血病・リンパ腫に対するニボルマブの第Ⅱ相医師主導治験	野坂 生郷	がんセンター	50,967	補助 委託 鹿児島大学
136	国内外のHT1家系の把握と現行HT1治療法調査	松本 志郎	新生児学寄附講座	500,000	補助 委託 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
137	医師主導治験の実施(症例登録及びプロトコル遂行)	山口 宗影	産科	709,804	補助 委託 国立大学法人千葉大学
138	HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	野坂 生郷	がんセンター	500,000	補助 委託 国立大学法人長崎大学
139	アグレッシブ成人T細胞白血病リシンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	野坂 生郷	がんセンター	200,000	補助 委託 国立研究開発法人国立がん研究センター
140	統合型ヘルスケアシステムの構築	中村 太志	医療情報経営企画部	23,637,316	補助 委託 国立大学法人東京大学
141	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	宮下 梓	総合臨床研究部研究展開センター	1,200,000	補助 委託 国立大学法人佐賀大学
142	人工知能を用いて多層検出器CT画像より疑似的なMR画像を作成する研究	中浦 猛	画像診断・治療科	300,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
143	心房細動治療前心臓CTによる心筋組織性状評価:撮像・評価法確立と臨床的意義の解明	木藤 雅文	中央放射線部	400,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
144	大腸癌に対する革新的治療戦略構築を目指した患者体組成に関する網羅的解析	徳永 竜馬	消化器外科	1,200,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
145	海馬アストロサイトに着目した電気けいれん療法の作用機序解明	朴 秀賢	神経精神科	1,000,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
146	統合的MRI解析を用いたCOVID-19神経学的後遺症に関する脳病態解明	上谷 浩之	画像動態応用医学共同研究講座	500,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
147	クローン性造血から見た心アミロイドーシスの病態解明	泉家 康宏	循環器内科	1,780,030	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
148	急性心筋梗塞におけるLAG-3の関連性の解明	藤末 昂一郎	心血管治療先端医療寄附講座	1,100,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
149	トレハロースによる腸-脳-心連関の解明	荒木 智	地域医療・総合診療実践学寄附講座	900,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
150	心内微小環境に着目したトランシスサイレチン型心アミロイドーシス病態解明	辻田 賢一	循環器内科	1,000,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
151	腫瘍関連マクロファージをターゲットとした小細胞肺癌の新規治療戦略	入來 豊久	呼吸器内科	1,000,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会
152	自己免疫性肺胞蛋白症に対する全肺洗浄の作用機序を理解するための基盤研究	坂上 拓郎	呼吸器内科	600,000	補助 委託 独立行政法人日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
153	糖尿病性腎症進展抑制を目指したエクソソーム阻害薬投与効果の検討	水本 輝彦	腎臓内科	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
154	細胞性免疫による急性腎障害進展機序に果たすMRP8の役割	栗原 孝成	腎臓内科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
155	脾腺房細胞におけるインスリン作用の意義と新規糖代謝調節機序の解明	福田 一起	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
156	がんーストローマ代謝物クロストークによる脾癌進展メカニズムの解明	北村文優	消化器外科	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
157	肝細胞癌切除新鮮組織からの細胞分離による腫瘍免疫細胞クロストークの解明	遊佐 俊彦	消化器外科	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
158	胃切除後の血糖変動を考慮した個別化栄養介入によるダンピング症候群の克服	井田 智	消化器外科	300,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
159	非小細胞肺癌における腫瘍関連好中球浸潤の分子メカニズムとその臨床的意義の解明	池田 公英	呼吸器外科	300,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
160	肉腫の転移に関わる免疫微小環境を標的とした新規治療法の開発	白石大偉輔	整形外科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
161	マクロファージのITAMシグナルを介したインプラントへの生体応答制御	岡元 信和	整形外科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
162	線維柱帶細胞の圧ストレス応答と房水流出抵抗の関係	藤本 智和	眼科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
163	メカノセレクション仮説から迫る循環腫瘍細胞クラスターの特性解明	神力 悟	臨床病態解析学	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
164	総合的血栓形成能を用いたDOACs内服患者の塞栓症/出血性合併症予測モデルの開発	伊藤 美和	循環器内科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
165	遺伝子改変iPS由来ミエロイドラインと免疫チェックポイント阻害薬併用療法の開発	木村俊寛	皮膚科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
166	アセトアミノフェンの鎮痛機序の解明	中村 真吾	麻酔科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
167	メソトレキサート耐性中枢神経原発悪性リンパ腫に対する新規治療標的の探索	藤本健二	脳神経外科	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
168	免疫チェックポイント阻害薬投与時の栄養管理に関する研究	猿渡 功一	呼吸器内科	600,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
169	F. nucleatumによる大腸癌進展と鉄代謝の関連	山根大侍	消化器外科	1,400,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
170	リキッドバイオプシーを用いた脾癌個別化治療のための腹膜播種予測miRNAパネルの開発	山村謙介	消化器外科	800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
171	定量的磁化率マッピングを用いた膠芽腫の免疫微小環境の画像化の開発	平井 俊範	画像診断・治療科	1,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会

19件

小計 17,100,000

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
172	転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の新たな試みBED-basedSRTにおけるLQCmodelの導入	大屋 夏生	放射線治療科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
173	脊髄性筋萎縮症とポンペ病の遺伝子解析とELISA法を用いた早期診断治療体制の確立	中村 公俊	小児科	1,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
174	遺伝子改変マウスを用いたグルタル酸尿症の病態解析	松本 志郎	新生児学寄附講座	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
175	DPP4によるM2マクロファージ分極化抑制と動脈硬化進展の機序解明	松村 剛	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
176	ポドサイト障害による糸球体係蹄内の血栓形成機序解析とPAI-1の役割解明	横井 秀基	腎臓内科	96,650	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
177	全身性強皮症の皮膚線維化に関する長鎖ノンコーディングRNAの機能解明	牧野 雄成	皮膚科	1,300,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
178	皮膚悪性腫瘍におけるリキッドバイオプシー臨床応用への基盤確立	梶原 一亨	皮膚科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
179	切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植で治癒に至る分子生物学的特性の解明	日比泰造	小児外科・移植外科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
180	脳常在型マクロファージのCD36を介した殺腫瘍作用による再発悪性神経膠腫の新規治療	植川 順	脳神経外科	1,100,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
181	Scx発現細胞を標的としたACL再建術後移植腱の早期再靭帯化についての研究	舛田 哲朗	整形外科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
182	ヒト原発性性腺機能不全の原因探索	大場 隆	産科	1,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
183	エキソソームmiRNAによる房水循環の制御	高橋 枝里	眼科	1,300,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
184	超解像技術を活用した小児CTの被ばく線量最適化	永山 泰教	画像診断・治療科	600,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
185	ポンペ病の新生児スクリーニングにおける乳児型ポンペ病のリスク評価システムの構築	澤田 貴彰	遺伝診療センター	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
186	新型コロナウイルス感染症による急性心筋梗塞の病態および循環器救急診療へ及ぼす影響	石井 正将	医療情報経営企画部	300,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
187	HTLV-1の適応進化不全によるATL発がん機構の解明と新規治療薬の探索	七條 敬文	血液内科	1,800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
188	Fusobacteriumが癌関連線維芽細胞と関連して消化器癌へ及ぼす影響のメカニズム解析	岡留一雄	消化器外科	1,700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
189	革新的治療法開発を目指したサルコペニアと腫瘍免疫の統合的解析	大徳 暢哉	消化器外科	1,800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
190	3Dプリンターを用いた実践的かつ量産可能な手術トレーニングキットの作成	沼口亮介	心臓血管外科	400,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
191	膠芽腫におけるtRNA修飾機構の解明と新たな治療アプローチの創造	山本 隆広	脳神経外科	1,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
192	新規視床下部タンパクSRPX2がくも膜下出血後の視床下部障害に果たす役割の解明	岳元 裕臣	脳神経外科	1,500,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
193	酪酸によるエピゲノム変化を介した口腔癌の進展機序の解明と新規治療法の創出	永尾 優果	歯科口腔外科	1,700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
194	修飾ヌクレオシドが織りなす生体制御と腎不全に伴う変化から紐解く新規心腎連関機序	向山 政志	腎臓内科	2,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
195	トランスサイレチン型心アミロイドーシスにおけるタファミジス長期投与の経時変化	九山 直人	循環器内科	900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
196	ATTRアミロイドーシスを真に克服する病態解明とアミロイド・クリアランス療法	植田 光晴	脳神経内科	3,900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
197	ヒトT細胞白血病ウイルス1型がコードするHBZによる発がん機構の解明	松岡 雅雄	血液内科	3,900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
198	新規HIV-1キャプシド(CA)阻害剤の開発と、CA脱殻に関する新規機序の解明	天野 将之	血液内科	3,800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
199	消化器癌の革新的治療法開発を目指したハグカデバネズミ腸内細菌のマルチオミクス解析	馬場 秀夫	消化器外科	4,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
200	リゾリン脂質代謝障害を基盤としたうつ病の層別化および新規抗うつ薬の革新的開発	竹林 実	神経精神科	2,800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
201	ライソゾーム栄養感知機構を標的としたNASH肝がん抑止を目指した創薬研究	田中 靖人	消化器内科	4,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
202	HTLV-1による免疫疲弊・ATL発がんの分子機構解明と治療ワクチンの開発	安永 純一朗	血液内科	4,900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
203	褐色脂肪活性化因子による筋代謝調節機序の解明とバイオマーカーとしての意義	荒木 栄一	糖尿病・代謝・内分泌内科	4,500,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
204	脳腫瘍の免疫血管微小環境と放射線画像radiomics解析の融合を基にした新規治療開発	武笠 晃丈	脳神経外科	4,700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
205	胎盤形成不全に対する先制医療開発のための基盤研究	近藤 英治	婦人科	4,900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
206	インスリンシグナルによるMrp4-cAMP-PPAR γ を介した新規脂肪肝発症の分子機構の解明	窪田 直人	糖尿病・代謝・内分泌内科	5,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
207	軟骨組織による老化と骨代謝制御	宮本 健史	整形外科	5,700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
208	新規同種移植モデルによる転座型腎細胞癌の包括的病態解明と新規治療戦略の創出	神波 大己	泌尿器科	3,400,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
209	緩和的放射線治療の有効性を予測する機械学習モデルの開発	斎藤 哲雄	放射線治療科 治療科	700,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会

19件

小計 63,700,000

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
210	定量的磁化率マッピングを用いた中枢神経系悪性リンパ腫の免疫微小環境の画像化の開発	福岡 博文	画像診断・治療科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
211	マグネシウム合金を用いた生体吸収性塞栓デバイスの塞栓効果、吸収性と組織反応の検討	清末 一路	画像診断・治療科	1,800,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
212	新規エピゲノム解析技術によるHBV遺伝子型間で異なるcccDNA制御機構の解明	渡邊 丈久	消化器内科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
213	tRNA修飾異常による糖尿病性神経障害発症の分子機構の解明	榎田 光倫	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
214	抗糖尿病作用を発揮する熱ストレス応答経路の臓器特異的機能解明	近藤 龍也	糖尿病・代謝・内分泌内科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
215	真菌叢を標的とした消化器癌に対する革新的治療法の開発	美馬 浩介	消化器外科	1,200,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
216	表面分子スクリーニングに基づく非小細胞肺癌に対する新規抗体医薬の開発	鈴木 実	呼吸器外科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
217	5HT3受容体拮抗薬が心筋虚血再灌流傷害へ及ぼす影響と分子機序の解明	平田 直之	麻酔科	1,700,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
218	リンパ節抗原提示細胞の解析とその活性化制御;新規がん免疫療法の開発に向けて	矢津田 旬二	泌尿器科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
219	光免疫療法で舌がんの転移を予防する	折田 賴尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,500,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
220	口腔癌細胞における鉄介在性細胞死フェロトーシスの制御と新規放射線治療戦略の創出	松岡祐一郎	歯科口腔外科	1,100,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
221	EGFRシグナルに着目した口腔がん微小環境の免疫動態の解明と新規がん免疫療法への応用	平山 真敏	歯科口腔外科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
222	収縮保持性心不全の病態に対するケトン体合成の意義について	山田 敏寛	循環器内科	1,300,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
223	STINGシグナルを介したマクロファージEfferocytosis制御による膵がん抑制機序の解明	山尾宣暢	消化器外科	2,100,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
224	スタチンのYAP/TAZを介したPD-L1の発現低下による抗腫瘍免疫のは是正	上村紀雄	消化器外科	1,600,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
225	小児先天性心疾患術後における総合的血栓形成能評価法による至適抗血栓療法の確立	松尾 倫	小児科	1,200,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
226	シングルセル解析に基づく糖尿病性腎臓病の機構解明ヒトへの応用	藤本 大介	腎臓内科	2,200,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
227	大腸癌患者におけるサルコペニアと腸内細菌叢の関連	坂本悠樹	消化器外科	1,900,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会
228	胃癌におけるHLA-E発現制御メカニズムの解明と治療法開発	森永 剛司	消化器外科	2,200,000	(補)委	独立行政法人 日本学術振興会

19件

小計 28,900,000

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
229	Tsukushiの肺線維症における機能解析	山田 竜也	呼吸器外科	900,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
230	網羅的な選択的有毛細胞障害モデルマウスへの幹細胞移植の基礎的研究	竹田 大樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
231	放射線耐性口腔扁平上皮癌に対するスルファサラジン併用療法の有効性の検討	中嶋 光	歯科口腔外科	1,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
232	難治性口腔がんの高次エピゲノムを標的とした新規診断・治療法の開発	山本 達郎	麻酔科	1,800,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
233	抗腫瘍ウイルスによる腫瘍微小環境改変を利用した口腔がん新規治療法開発	郷原 俊輔	歯科口腔外科	2,200,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
234	脳脈絡叢を標的とした革新的な中枢神経アミロイドーシス治療法の開発	植田 光晴	脳神経内科	2,000,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
235	Bifunctional RNAによる新しい遺伝子機能の解明と発がんにおける意義	安永 純一朗	血液内科	2,500,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
236	生体イメージングを駆使したシュレム管内の細胞外ミトコンドリアの機能探索	井上 俊洋	眼科	1,500,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
237	クローン性造血を介した脳動脈瘤破裂の機序の解明	内川 裕貴	脳神経外科	1,600,000	(補) 委	独立行政法人 日本学術振興会
238	多彩な自然災害発災時における循環器病発症・再発予防に資する注意喚起ツールの開発	辻田 賢一	循環器内科	3,150,000	(補) 委	厚生労働省
239	新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症の成人期にいたる診療体制構築と提供に関する研究	中村 公俊	小児科	17,600,000	(補) 委	厚生労働省

11件

小計 372,575,881

239件

小計 372,575,881

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能 病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Honda Y, Nomura T, Nakahara K, et al	脳神経内科	A Case of Multiple Intracranial Hemorrhages Due to Biopsy-Proven Varicella Zoster Virus Vasculopathy Without Rash.	Cureus. 2025 Jan 23;17(1):e77890. (オンライン)	Case Report
2	Mizutani H, Nakahara K, Ueda M	脳神経内科	Early Diagnosis of WEBINO (Wall-Eyed Bilateral Internuclear Ophthalmoplegia) Syndrome Using Thin-Slice Gapless Diffusion-Weighted Imaging in an Acute Ischemic Stroke Patient: A Case Report.	Cureus. 2024 Nov 10;16(11):e73372. (オンライン)	Case Report
3	Matsushima R, Fujino K, Motooka Y, et al	呼吸器外科	Comparison of survivals between sublobar resection and lobar resection for patients with clinical stage I non-small cell lung cancer and interstitial lung disease: a propensity score matching analysis.	Thorac Cancer. 2024 Oct;15(30):2166–2174.	Original Article
4	Yamamoto Y, Yamauchi C, Toyama T, et al	乳腺・内分泌外科	The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for Breast Cancer, 2022 Edition: changes from the 2018 edition and general statements on breast cancer treatment.	Breast Cancer. 2024 May;31(3):340–346.	Original Article
5	Tanaka K, Matsumoto S, Yoneda N, et al	小児科	Decrease in the Internal Cerebral Vein Pulsation With Improvement of Patent Ductus Arteriosus in Premature Infants at the Risk of Intraventricular Hemorrhage: Two Interesting Case Reports.	Cureus. 2024 Jul 21;16(7):e65030. (オンライン)	Case Report
6	Nakamura E, Okamoto N, Masuda T, et al	整形外科	Medial-pivot design does not provide superior clinical results compared to posterior-stabilized total knee arthroplasty despite kinematic differences during step-up and lunge activities: A prospective randomized controlled trial under medial tight soft tissue balance.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2024 Dec;32(12):3289–3298.	Original Article
7	Matsui K, Kusano K, Akao M, et al	総合診療科	Observational study of frailty in older Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation receiving anticoagulation therapy.	Sci Rep. 2024 Jun 22;14(1):14423. (オンライン)	Original Article
8	Nakamura T, Yoshinouchi T, Okumura M, et al	中央検査部	Diverse antifungal potency of terbinafine as a therapeutic agent against Exophiala dermatitidis in vitro.	Sci Rep. 2024 Nov 11;14(1):27500. (オンライン)	Original Article
9	Usuku H, Yamamoto E, Miyazaki K, et al	中央検査部	Clinical significance of the estimation of pulmonary-right ventricular uncoupling in patients with transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Eur Heart J Imaging Methods Pract. 2025 Jan 17;3(1):qya113. (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
10	Usuku H, Oike F, Kuyama N, et al	中央検査部	Echocardiographic findings of patients with transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Echocardiogr. 2025 Mar;23(1):1–9.	Original Article
11	Usuku H, Yamamoto E, Oike F, et al	中央検査部	Current awareness and use of transthoracic echocardiography in evaluation of valvular heart disease in Kumamoto Prefecture –a report from the Kumamoto cardiovascular echocardiography standardization project.	J Echocardiogr. 2024 Dec;22(4):202–209.	Original Article
12	Usuku H, Yamamoto E, Higashi R, et al	中央検査部	Prognostic value of left atrial stiffness in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 Dec 24;56:101559. (オンライン)	Original Article
13	Usuku H, Yamamoto E, Sakata K, et al	中央検査部	Usefulness of platelet count to predict concomitant valvular heart disease in patients with systemic lupus erythematosus.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 May 24;53:101420. (オンライン)	Original Article
14	Emoto T, Kidoh M, Oda S, et al	中央放射線部	Diagnostic performance of unenhanced electrocardiogram-gated cardiac CT for detecting myocardial edema.	Medicine (Baltimore). 2024 May 17;103(20):e38295.	Original Article
15	Emoto T, Nagayama Y, Takada S, et al	中央放射線部	Super-resolution deep-learning reconstruction for cardiac CT: impact of radiation dose and focal spot size on task-based image quality.	Phys Eng Sci Med. 2024 Sep;47(3):1001–1014.	Original Article
16	Honda K, Oda S, Kondo D, et al	中央放射線部	Efficacy of dual-layer spectral detector computed tomography for detecting early ischemic changes in patients with acute ischemic stroke: A pilot study.	J Clin Imaging Sci. 2025 Mar 3;15:11. (オンライン)	Original Article
17	Oda S, Funama Y, Kojima S, et al	中央放射線部	Basic verification of myocardial extracellular volume quantification by prototype photon-counting detector computed tomography: A phantom study.	J Clin Imaging Sci. 2025 Feb 11;15:8. (オンライン)	Original Article
18	Yamada R, Arima K, Yano H, et al	病理部	Impact of HTLV-1 infection on clinicopathological characteristics and tumour immune microenvironment in colorectal cancer.	Virchows Arch. 2025 Mar 20.	Original Article
19	Ozono K, Kawakami F, Mikami Y	病理部	Significance and limitations of routine p16/Ki-67 immunohistochemistry as a diagnostic tool for high-grade squamous intraepithelial lesions of the uterine cervix.	Obstet Gynecol Sci. 2025 Jan;68(1):79–89.	Original Article
20	Oda K, Tsuruta T, Hanai Y, et al	薬剤部	Personalized Dosing of Linezolid to Reduce the Risk of Thrombocytopenia: A Systematic Review and Meta-Analysis.	Ther Drug Monit. 2025 Jan 23.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能 病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Oda K, Jono H, Kamohara H, et al	薬剤部	Population Pharmacokinetic Modeling of Unbound Meropenem in Patients Undergoing Continuous Renal Replacement Therapy: An Observational Cohort Study.	Ther Drug Monit. 2024 Oct 1;46(5):584–593.	Original Article
22	Oda K, Katanoda T, Arakaki H, et al	薬剤部	Thiamylal serum concentration for refractory convulsive status epilepticus while associated decreased concentrations of concomitant antiepileptics: a case report.	J Pharm Health Care Sci. 2024 Jul 12;10(1):39. (オンライン)	Original Article
23	Oda K, Okamoto S, Iwanaga E, et al	薬剤部	Investigating the WHO's AWaRe classification for assessing antimicrobial stewardship programs: A single-center study.	J Infect Chemother. 2025 Jan;31(1):102511.	Original Article
24	Oda K, Matsumoto K, Shoji K, et al	薬剤部	Validation and development of population pharmacokinetic model of vancomycin using a real-world database from a nationwide free web application.	J Infect Chemother. 2024 Dec;30(12):1244–1251.	Original Article
25	Oda K, Hiyama Y, Ueda T, et al	薬剤部	Empirical dosage determination of vancomycin for a target area under the concentration–time curve of 400a?PgA·h/mL in the first 24a?I: A prospective multicenter observational study with rich sampling.	Br J Clin Pharmacol. 2025 Feb 17.	Original Article
26	Kondo S, Oda K, Kaneko T, et al	薬剤部	Teicoplanin 24-h loading dose regimen using a decision tree model to target serum trough concentration of 15–30A?I?g/mL: A retrospective study.	J Infect Chemother. 2025 Feb;31(2):102564.	Original Article
27	Oda K, Hayashi H, Yamamoto K, et al	薬剤部	Antibiotic spectrum coverage scoring as a potential metric for evaluating the antimicrobial stewardship team activity: a single-center study.	Infect Control Hosp Epidemiol. 2024 Oct 10;45(11):1–9.	Original Article
28	Naruse A, Yamada Y, Miyamoto T	医療技術部	Skeletal Muscle Mass Loss and Physical Function in Young to Middle-Aged Adult Patients With Diabetes: Cross-Sectional Observational Study.	Interact J Med Res. 2024 Dec 18;13:e58038. (オンライン)	Original Article
29	Okabayashi H, Nakashima S, Fujino K, et al	呼吸器内科	Tension Pneumomediastinum in Anti-MDA5 Antibody-positive Dermatomyositis-associated Interstitial Lung Disease: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2024 Dec 1;63(23):3221–3226.	Case Report
30	Anai M, Hamada S, Jodai T, et al	呼吸器内科	Pulmonary Tumor Embolism due to Oropharyngeal Carcinoma Diagnosed by a Transbronchial Lung Biopsy.	Intern Med. 2025 Jan 15;64(2):267–271.	Case Report
31	Akaike K, Saruwatari K, Sakata S, et al	呼吸器内科	(18)F-FDG accumulation at the early onset of acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia on (18)F-FDG PET/CT: A case report.	Respirol Case Rep. 2024 Jul 14;12(7):e01427. (オンライン)	Case Report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
32	Anai M, Inoue H, Saruwatari K, et al	呼吸器内科	Negative-predictive value of SUVmax for Ascertaining the efficacy of osimertinib in EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer.	Respir Investig. 2024 Nov;62(6):1072–1078.	Original Article
33	Masuda Y, Okabayashi H, Akaike K, et al	呼吸器内科	Case Report: Tattoo sarcoidosis with epithelioid cell granuloma positive for Propionibacterium acnes.	Front Med (Lausanne). 2025 Mar 19;12:1552114. (オンライン)	Case Report
34	Jodai Y, Saruwatari K, Muramoto K, et al	呼吸器内科	A Case of Rapid Emergence of Small-cell Carcinoma due to Malignant Transformation or de novo Formation in the Anterior Mediastinum Following Thymoma Resection: The Importance of a Re-biopsy.	Intern Med. 2024 Dec 26.	Original Article
35	Nakashima M, Naoe H, Komohara Y, et al	消化器内科	Proton Pump Inhibitor Associated Multiple Gastric Hyperplastic Polyps With Uncontrollable Bleeding: A Case Report.	In Vivo. 2024 May-Jun;38(3):1465–1469.	Case Report
36	Tanaka Y, Nakamoto D, Piao Y, et al	消化器内科	Implementation of Guideline-Based HBV Reactivation Management in Patients with Chronic HBV Infections of HBsAg or Resolved HBV Infection Undergoing Immunosuppressive Therapy.	Infect Dis Ther. 2024 Jul;13(7):1607–1620.	Original Article
37	Waki K, Nagaoka K, Okubo K, et al	消化器内科	Optimizing AI models to predict esophageal squamous cell carcinoma risk by incorporating small datasets of soft palate images.	Sci Rep. 2025 Feb 1;15(1):4003. (オンライン)	Original Article
38	Kawakami Y, Shichijo S, Uedo N, et al	消化器内科	Endoscopic mucosal resection and open-lid submucosal biopsy for the diagnosis of diffuse infiltrative gastric cancer: a retrospective observational study.	Scand J Gastroenterol. 2025 Feb;60(2):208–212.	Original Article
39	Tanaka Y	消化器内科	Clinical potential of SAG-524: A novel HBV RNA destabilizer with a unique mechanism of action.	Glob Health Med. 2025 Feb 28;7(1):64–66.	Original Article
40	Morita M, Waki K, Tanaka Y	消化器内科	Usefulness of novel line traction-assisted polypectomy for a large gastric polyp prolapsing into the duodenum.	Dig Endosc. 2025 Jan 31.	Original Article
41	Matsuno K, Miyamoto H, Shimoda M, et al	消化器内科	BRAF-mutant mismatch repair deficient invasive colon cancer regressing to sessile serrated lesion.	Clin J Gastroenterol. 2024 Oct;17(5):904–909.	Case Report
42	Inada H, Nagaoka K, Hashimoto K, et al	消化器内科	Serum alpha-fetoprotein/hepatocyte growth factor ratio as a novel biomarker predicting the prognosis of acute alcoholic hepatitis.	Hepatol Res. 2025 Feb 19.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能 病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
43	Waki K, Matsuno K, Miyamoto H, et al	消化器内科	Combined endoscopic submucosal dissection and endoscopic laryngopharyngeal surgery for an oropharyngeal lesion extending to the flap of a glossopharyngeal reconstruction.	Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E1032–E1033.	Original Article
44	Honda M, Oda Y, Gushima R, et al	消化器内科	Impact of Surveillance Colonoscopy Timing on Colorectal Cancer Incidence After Advanced Adenoma Resection.	Am J Gastroenterol. 2025 Feb 28.	Original Article
45	Matsubara D, Kugiyama N, Nagaoka K, et al	消化器内科	Portal vein stenting blocked the inflow tract and completely resolved bile duct varices, formed by cavernous transformation of the portal vein.	Clin J Gastroenterol. 2024 Dec;17(6):1106–1110.	Case Report
46	Miyamoto H, Kondo Y, Itobayashi E, et al	消化器内科	Evaluation of the associations of interleukin-7 genetic variants with toxicity and efficacy of immune checkpoint inhibitors: A replication study of a Japanese population, based on the findings of a European genome-wide association study.	Hepatol Res. 2024 Dec;54(12):1215–1225.	Original Article
47	Inada H, Miyamoto H, Shinriki S, et al	消化器内科	Clinical utility of a comprehensive genomic profiling test for patient with advanced biliary tract cancer.	Int J Clin Oncol. 2024 Dec;29(12):1908–1915.	Original Article
48	Endo S, Nishimura N, Toyoda K, et al	血液内科	Decreased PU.1 expression in mature B cells induces lymphomagenesis.	Cancer Sci. 2024 Dec;115(12):3890–3901.	Original Article
49	Kawano Y, Nishimura N, Yasunaga JI	血液内科	Serum monoclonal immunoglobulin light-chain detection differs between immunofixation electrophoresis methods in patients with AL amyloidosis.	Int J Hematol. 2024 Aug;120(2):212–216.	Original Article
50	Kajihara R, Long MD, Hoki T, et al	血液内科	Divergent transcriptional states and kinetics of circulating tumor-infiltrating lymphocyte repertoires with highly homologous T-cell receptor sequences in a patient during immunotherapy.	J Immunother Cancer. 2025 Jan 25;13(1):e010092. (オンライン)	Original Article
51	Yamamura R, Nagayoshi Y, Nishiguchi K, et al	腎臓内科	Bacteria-specific modified nucleoside is released and elevated in urine of patients with bacterial infections.	mBio. 2025 Jan 8;16(1):e0312424.	Original Article
52	Kuwabara T, Miyasato Y, Kanki T, et al	腎臓内科	SURvey of renal Biopsy registry database and Anticancer dRUG therapy in Japan (SUBARU-J study).	Clin Kidney J. 2024 Nov 28;17(12):sfae327. (オンライン)	Original Article
53	Matsushita K, Nagayoshi Y, Yoshii R, et al	腎臓内科	Rituximab as an Effective Treatment for New-onset Evans Syndrome and Systemic Lupus Erythematosus with Lupus Nephritis.	Intern Med. 2025 Mar 15.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
54	Kondo T, Senokuchi T, Morinaga J, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	The benefits and accuracy of real-time continuous glucose monitoring in children and adolescents with type 1 diabetes attending a summer camp.	J Diabetes Investig. 2025 Jan;16(1):154–162.	Original Article
55	Sakaguchi M	糖尿病・代謝・内分泌 内科	The role of insulin signaling with FOXO and FOXK transcription factors.	Endocr J. 2024 Oct 1;71(10):939–944.	Original Article
56	Kubota N, Kubota T, Kadowaki T	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Physiological and pathophysiological actions of insulin in the liver.	Endocr J. 2025 Feb 3;72(2):149–159.	Original Article
57	Kondo T, Senokuchi T, Yano M, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Benefits and Accuracy of Real-Time CGM in Children and Adolescents with Type 1 Diabetes Attending Summer Camp: 2nd year.	J Clin Endocrinol Metab. 2025 Mar 12:dgaf160.	Original Article
58	Wada T, Senokuchi T, Shi Y, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Orally administrated acetate inhibits atherosclerosis progression through AMPK activation via GPR43 in plaque macrophages.	Atherosclerosis. 2025 Feb;401:119088.	Original Article
59	Okagawa S, Sakaguchi M, Okubo Y, et al	糖尿病・代謝・内分泌 内科	Hepatic SerpinA1 improves energy and glucose metabolism through regulation of preadipocyte proliferation and UCP1 expression.	Nat Commun. 2024 Nov 12;15(1):9585. (オンライン)	Original Article
60	Tsujita K	循環器内科	At the Forefront of Cardiovascular Diseasea Challenges of Circ J.	Circ J. 2024;89(1):1. December 25, 2024	Original Article
61	Ikebe S, Yamamoto M, Ishii M, et al	循環器内科	Managing heart failure with reduced ejection fraction merged with myocardial infarction with non-obstructive coronary arteries: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Sep 28;8(10):ytae540. (オンライン)	Case Report
62	Fontana M, Berk JL, Gillmore JD, et al	循環器内科	Vutrisiran in Patients with Transthyretin Amyloidosis with Cardiomyopathy.	N Engl J Med. 2025 Jan 2;392(1):33–44.	Original Article
63	Hirakawa K, Asano R, Ueda J, et al	循環器内科	Calcium channel blockers in patients with pulmonary arterial hypertension receiving PAH-specific treatment.	Int J Cardiol. 2024 Jul 1;406:132043.	Original Article
64	Miyazaki Y, Ishibashi K, Ueda N, et al	循環器内科	Right Atrial Septal Lead Enhances theA?Favorable Effects of the AdaptiveA?Cardiac Resynchronization Therapy Algorithm.	JACC Asia. 2024 Apr 3;4(4):335–338. (オンライン)	Original Article
65	Kaikita K, Uchiyama S, Atarashi H, et al	循環器内科	Antiplatelets for Cardiovascular Disease in Non-valvular AF with Rivaroxaban: A Subanalysis of the EXPAND Study.	J Atheroscler Thromb. 2025 Feb 1;32(2):176–187.	Original Article
66	Ogata K, Nishihira K, Asano Y, et al	循環器内科	Clinical Comparison of Drug-Coated Balloon and Drug-Eluting Stent for Femoropopliteal Lesions in Chronic Limb-Threatening Ischemia With Wounds.	Circ J. 2024 Sep 25;88(10):1647–1655.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
67	Otsuka Y, Ishii M, Tabata N, et al	循環器内科	Subclinical leaflet thrombus in patients with severe aortic stenosis and atrial fibrillation –ENRICH-AF TAVI study.	Sci Rep. 2024 Jun 28;14(1):14902. (オンライン)	Original Article
68	Matsuzawa Y, Tsujita K	循環器内科	Standing Together With the General Public Against Acute Myocardial Infarction: Japan's Efforts and Future Perspectives.	Circ J. 2024 Jul 25;88(8):1235–1236.	Original Article
69	Ogata F, Hanatani S, Nakashima N, et al	循環器内科	Human epididymis protein 4 is a useful predictor of post-operative prognosis in patients with severe aortic stenosis.	ESC Heart Fail. 2024 Oct;11(5):2924–2932.	Original Article
70	Kamoshida J, Ueda N, Ishibashi K, et al	循環器内科	Elevated B-Type Natriuretic Peptide Level as a Residual Risk Factor for Ventricular Arrhythmias Among Patients Undergoing Cardiac Resynchronization Therapy With Improved Left Ventricular Ejection Fraction.	Circ Rep. 2024 Sep 14;6(10):407–414. (オンライン)	Original Article
71	Miyazaki Y, Ishibashi K, Ueda N, et al	循環器内科	Evaluation of synchronized left ventricular pacing rate over biventricular pacing in cardiac resynchronization therapy.	J Cardiol. 2024 Sep;84(3):165–169.	Original Article
72	Mizuta H, Ishii M, Ikebe S, et al	循環器内科	Triglycerides and the Risk of Atherosclerotic Cardiovascular Events Across Different Risk Categories.	J Atheroscler Thromb. 2024 Dec 13.	Original Article
73	Sueta D, Yamashita Y, Morimoto T, et al	循環器内科	Edoxaban, Rivaroxaban, or Apixaban for Cancer-Associated Venous Thromboembolism in the Real World: Insights from the COMMAND VTE Registry-2.	Thromb Haemost. 2024 Nov;124(11):1013–1023.	Original Article
74	Oguni T, Takashio S, Kuyama N, et al	循環器内科	Clinical characteristics of patients with high extracellular volume fraction evaluated by cardiac computed tomography for coronary artery evaluation.	Eur Heart J Open. 2024 Apr 27;4(3):oeae036. (オンライン)	Original Article
75	Mitsui K, Takagi K, Kataoka Y, et al	循環器内科	Impact of the en face view for coronary cannulation after transcatheter aortic valve replacement.	Cardiovasc Interv Ther. 2025 Mar 17.	Original Article
76	Miyazaki Y, Ishibashi K, Ueda N, et al	循環器内科	Mid-Range Paced-QRS as an Independent Negative Predictor of Cardiac Events: Right Ventricular Pacing Implications.	Circ J. 2025 Feb 28.	Original Article
77	Aikawa H, Fujino M, Nakao K, et al	循環器内科	Diversity in Acute Autoimmune Pericarditis: Nationwide Analysis of In-Hospital Outcomes and Recurrence.	JACC Asia. 2024 Aug 27;4(10):721–731. (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
78	Morikawa K, Izumiya Y, Takashio S, et al	循環器内科	Early experience with daratumumab-containing regimens in patients with light-chain cardiac amyloidosis.	J Cardiol. 2024 Dec 3:S0914–5087(24)00216–8.	Original Article
79	Sueta D, Araki S, Usuku H, et al	循環器内科	Clinical outcomes of patients from older community hospitalized for heart failure in guideline-directed medical therapy era: Insights from the COMPASS-HF registry.	J Cardiol. 2025 Mar;85(3):257–259.	Original Article
80	Kuyama N, Izumiya Y, Takashio S, et al	循環器内科	Long-Term Outcomes of Tafamidis Treatment for Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy in Two Patients.	JACC Case Rep. 2024 Nov 20;29(22):102771. (オンライン)	Case Report
81	Kuyama N, Araki S, Kaikita K, et al	循環器内科	Mineralocorticoid Receptor Blocker Prevents Mineralocorticoid Receptor-Mediated Inflammation by Modulating Transcriptional Activity of Mineralocorticoid Receptor-p65-Signal Transducer and Activator of Transcription 3 Complex.	J Am Heart Assoc. 2024 Sep 17;13(18):e030941.	Original Article
82	Kuyama N, Takashio S, Oguni T, et al	循環器内科	Cardiac Biomarker Change at 1 Year After Tafamidis Treatment and Clinical Outcomes in Patients With Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy.	J Am Heart Assoc. 2024 May 21;13(10):e034518.	Original Article
83	Matsunaga K, Hoshiyama T, Kaneko S, et al	循環器内科	Impact of the transseptal puncture location on the fossa ovalis on first-pass pulmonary vein isolation.	Heart Rhythm. 2024 Sep 27:S1547–5271(24)03370–8.	Original Article
84	Hoshiyama T, Ashikaga K, Morihisa K, et al	循環器内科	Association Between ALDH2 Genotypes and Atrial Fibrillation Recurrence Following Catheter Ablation: Prospective Multicenter Cohort Study.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2025 Jan;18(1):e013433.	Letter
85	Kuyama N, Izumiya Y, Takashio S, et al	循環器内科	Long-Term Effect of Tafamidis on Clinical Parameters and Prognostic Predictors in Patients With Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy.	Circ J. 2025 Mar 25;89(4):421–431.	Original Article
86	Yabumoto N, Fujino M, Sugane H, et al	循環器内科	Clinical implications of calcification severity adjacent to calcified nodule: Its association with first and recurrent risks of target lesion revascularization after percutaneous coronary intervention.	Atherosclerosis. 2025 Mar;402:119116.	Original Article
87	Otsuka Y, Ishii M, Ikebe S, et al	循環器内科	Changes in systolic blood pressure during hospitalisation and bleeding events after percutaneous coronary intervention.	Open Heart. 2024 Dec 23;11(2):e002987. (オンライン)	Original Article
88	Nakashima T, Kondo T, Nakata J, et al	循環器内科	Expert Consensus Statement on the Evaluation, Treatment, and Transfer of Cardiogenic Shock Using a Delphi Method Approach: A Report of the Japan Critical Care Cardiology Committee (J4CS).	Circ J. 2025 Mar 29.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
89	Aikawa H, Fujino M, Nakao K, et al	循環器内科	Nationwide Trends in Idiopathic Pericarditis Management and Outcomes in Japan: A Nationwide JROAD-DPC Analysis.	Circ J. 2025 Mar 30.	Original Article
90	Kanazawa H, Takashio S, Hoshiyama T, et al	循環器内科	Clinical outcomes of catheter ablation for atrial fibrillation, atrial flutter, and atrial tachycardia in wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy: a proposed treatment strategy for catheter ablation in each arrhythmia.	Europace. 2024 Jun 3;26(6):euae155.	Original Article
91	Ishii M, Yamamoto M, Otsuka Y, et al	循環器内科	Impact of a smartphone-connected remote monitoring system on self-management continuity and health awareness in cardiovascular outpatients: an exploratory survey.	Eur Heart J Digit Health. 2024 Dec 24;6(2):289–292. (オンライン)	Original Article
92	Nakane S, Mukaino A, Okumura Y, et al	脳神経内科	The Presence of Ganglionic Acetylcholine Receptor Antibodies in Sera from Patients with Functional Gastrointestinal Disorders: A Preliminary Study.	J Pers Med. 2024 Apr 30;14(5):485. (オンライン)	Original Article
93	Misumi Y, Yamashita T, Kuratomi A, et al	脳神経内科	Long-term course of a case with a novel homozygous kyphoscoliosis peptidase variant.	J Hum Genet. 2024 Jul;69(7):345–348.	Case Report
94	Nomura T, Imamura M, Imura M, et al	脳神経内科	Efgartigimod treatment for generalized myasthenia gravis: a single-center case series of 16 patients.	Front Neurol. 2024 Oct 14;15:1472845. (オンライン)	Original Article
95	Matsubara S, Nakajima M, Kaku Y, et al	脳神経内科	Percutaneous Cerebral Angioplasty for Refractory Middle Cerebral Artery Stenosis Due to Varicella-Zoster Virus-Related Vasculopathy: A Case Report.	Cureus. 2024 Sep 20;16(9):e69773. (オンライン)	Case Report
96	Sen S, Nagao Y, Inatomi Y, et al	脳神経内科	Stent Retriever Angioplasty for Acute Restenosis of the Middle Cerebral Artery: A Case Report.	Cureus. 2024 May 5;16(5):e59696. (オンライン)	Case Report
97	Namitome S, Nagao Y, Shigehatake Y, et al	脳神経内科	Evaluation of partial resheathing of EmboTrap III using the microcatheter (PREMIER) technique for fibrin-rich hard clots in an in vitro vessel model.	Front Neurol. 2024 Aug 7;15:1368890. (オンライン)	Original Article
98	Mizutani H, Nakajima M, Ueda M	脳神経内科	Delayed cerebral complications associated with endovascular catheter coil embolization for pulmonary venous shunts mimicking cerebral inflammatory diseases.	Heliyon. 2024 Jun 24;10(13):e33541. (オンライン)	Case Report
99	Mizutani H, Misumi Y, Ueda M	脳神経内科	Teaching NeuroImage: Giant Tumefactive Perivascular Spaces: Longitudinal Follow-Up.	Neurology. 2024 Aug 13;103(3):e209643.	Case Report
100	Yamashita S, Tawara N, Sugie K, et al	脳神経内科	Impact of sex, age at onset, and anti-cN1A antibodies on sporadic inclusion body myositis.	J Neurol Sci. 2024 Sep 15;464:123164.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
101	Imura M, Nakahara K, Hara K, et al	脳神経内科	Rapidly Progressive Gait Disturbance and Extensive Iron Deposits in Late-Onset MPAN With a Pathogenic C19orf12 Variant: An 8-Year Follow-up.	Neurology. 2024 Aug 27;103(4):e209724.	Case Report
102	Murakami H, Mizutani H, Nakahara K, et al	脳神経内科	Utilization of Heavily T2-Weighted Imaging and Dynamic Contrast-Enhanced 3T Magnetic Resonance Angiography for Diagnosing Spinal Extradural Arteriovenous Fistula: A Case Report.	Cureus. 2024 Dec 31;16(12):e76708. (オンライン)	Case Report
103	Mizutani H, Misumi Y, Hamanaka K, et al	脳神経内科	A Case of Nebulin-Related Nemaline Myopathy With Asymmetric Distal Lower Limb Weakness.	Cureus. 2025 Feb 13;17(2):e78945. (オンライン)	Case Report
104	Matsuo K, Asamitsu S, Maeda K, et al	脳神経内科	RNA G-quadruplexes form scaffolds that promote neuropathological I±-synuclein aggregation.	Cell. 2024 Nov 27;187(24):6835–6848.e20.	Original Article
105	Yabuki Y, Matsuo K, Komiya G, et al	脳神経内科	RNA G-quadruplexes and calcium ions synergistically induce Tau phase transition in A?vitro.	J Biol Chem. 2024 Dec;300(12):107971.	Original Article
106	Hidaka H, Sadanaga T, Hirota T, et al	心臓血管外科	Left atrial rupture during on-pump beating coronary artery bypass grafting.	Surg Case Rep. 2024 Nov 21;10(1):268. (オンライン)	Original Article
107	Nakata K, Moriyama S, Yoshinaga T, et al	心臓血管外科	A Giant Aneurysm of Vieussens' Arterial Ring With Pulmonary Artery Fistula.	Ann Thorac Surg Short Rep. 2024 Jun 4;2(4):742–745. (オンライン)	Case Report
108	Horibe T, Nakata K, Hirota T, et al	心臓血管外科	Left ventricular papillary muscle rupture due to acute myocardial infarction after transcatheter aortic valve replacement.	Int J Surg Case Rep. 2025 Jan;126:110637.	Case Report
109	Nakata K, Takaki J, Fukui T	心臓血管外科	Corrected partial anomalous pulmonary vein connection associated with lung resection: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Nov 21;10(1):267. (オンライン)	Original Article
110	Yoshinaga T, Takaki J, Nakata K, et al	心臓血管外科	Pericardectomy using an ultrasonic scalpel in patients with constrictive pericarditis.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2025 Feb 5;40(2):ivaf025.	Original Article
111	Matsushima R, Wakamatsu E, Machiyama H, et al	呼吸器外科	Imaging of biphasic signalosomes constructed by checkpoint receptor 2B4 in conventional and chimeric antigen receptor-T cells.	iScience. 2024 Dec 21;28(1):111669. (オンライン)	Original Article
112	Shimogawa T, Miyamoto Y, Hiyoshi Y, et al	消化器外科	Intracranial Subdural Empyema During Long-term Chemotherapy for Metastatic Colorectal Cancer: Case Report.	In Vivo. 2024 Sep-Oct;38(5):2557–2561.	Case Report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
113	Okabe H, Masuda T, Tomita M, et al	消化器外科	Diagnostic accuracy of preoperative adhesion mapping by ultrasonography for laparoscopic surgery in patients with past abdominal surgery with special reference to loose adhesion.	Asian J Endosc Surg. 2024 Jul;17(3):e13332.	Original Article
114	Masuda T, Beppu T, Okabe H, et al	消化器外科	How Can We Improve the Survival of Patients with Colorectal Liver Metastases Using Thermal Ablation?	Cancers (Basel). 2025 Jan 9;17(2):199. (オンライン)	Original Article
115	Ofuchi T, Iwatsuki M, Matsumoto C, et al	消化器外科	Laparoscopic versus open abdominal lymph node dissection for esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score matching analysis.	Surg Today. 2024 Dec;54(12):1445–1452.	Original Article
116	Nakashima R, Kitano Y, Okabe H, et al	消化器外科	Rising pseudocysts in the hepatoduodenal ligament caused by a ruptured intraductal papillary mucinous neoplasm with surgical treatment.	J Gastroenterol Hepatol. 2024 Dec;39(12):2477–2478.	Original Article
117	Ofuchi T, Mima K, Hayashi H, et al	消化器外科	Impairment of perioperative activities of daily living is associated with poor prognosis following pancreatectomy for pancreatic cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2024 Sep 24;409(1):289. (オンライン)	Original Article
118	Omachi K, Kosumi K, Tanizaki T, et al	消化器外科	Esophageal dedifferentiated liposarcoma resected by the cervical approach: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Aug 28;10(1):199. (オンライン)	Original Article
119	Wu X, Yamashita K, Matsumoto C, et al	消化器外科	YAP acts as an independent prognostic marker and regulates growth and metastasis of gastrointestinal stromal tumors via FBXW7-YAP pathway.	J Gastroenterol. 2025 Mar;60(3):275–284.	Original Article
120	Nakagawa S, Hayashi H, Itohama R, et al	消化器外科	BALAD score predicts the recurrence and survival in the patients who underwent initial hepatectomy for HCC	Surg Oncol. 2024 Aug;55:102097.	Original Article
121	Matsumoto C, Iwatsuki M, Morinaga T, et al	消化器外科	The relationship between the treatment course and prognosis of oligometastasis after esophageal squamous cell carcinoma resection.	Surg Today. 2024 Aug;54(8):927–934.	Original Article
122	Shimogawa T, Hiyoshi Y, Ouchi M, et al	消化器外科	Poorly differentiated mucinous carcinoma of the ascending colon complicated by bilateral ovarian mature cystic teratomas in a 17-year-old female patient: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Apr 23;10(1):95. (オンライン)	Original Article
123	Zhang J, Fu L, Wang H, et al	消化器外科	RAC1-mediated integrin alpha-6 expression in E-cadherin-deficient gastric cancer cells promotes interactions with the stroma and peritoneal dissemination.	Cancer Lett. 2024 Jun 1;591:216901.	Original Article
124	Wu X, Yamashita K, Lou M, et al	消化器外科	AT101 Suppresses Gastrointestinal Stromal Tumor Growth and Promotes Apoptosis via YAP/TAZ-CCND1 and FBXW7-MCL1 Axes.	Ann Surg Oncol. 2025 Mar 27.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
125	Shiraishi Y, Hayashi H, Liu Z, et al	消化器外科	YAP/TAZ overexpression activates mTOR and Erk1/2 signalling and is associated with worse outcomes for patients with pancreatic neuroendocrine neoplasms.	Br J Surg. 2025 Feb 1;112(2):znaf006.	Original Article
126	Ogawa K, Komori H, Tajiri T, et al	消化器外科	Association of Acute Care Surgeon Involvement With Post-Surgery Complications.	J Surg Res. 2024 Sep;301:640–646.	Original Article
127	Yumoto S, Hayashi H, Mima K, et al	消化器外科	Effects of Minimally Invasive Versus Open Pancreatoduodenectomy on Short-Term Surgical Outcomes and Postoperative Nutritional and Immunological Statuses: A Single-Institution Propensity Score-Matched Study.	Ann Surg Open. 2024 Aug 30;5(3):e487. (オンライン)	Original Article
128	Okabe H, Masuda T, Nitta H, et al	消化器外科	Advanced Cholangiocarcinoma With High Tumor Mutation Burden Achieving Complete Response to Immune Check Point Inhibitor.	Anticancer Res. 2024 Jul;44(7):3199–3203.	Case Report
129	Miyamoto Y, Nakaura T, Ohuchi M, et al	消化器外科	Radiomics-based Machine Learning Approach to Predict Chemotherapy Responses in Colorectal Liver Metastases.	J Anus Rectum Colon. 2025 Jan 25;9(1):117–126. (オンライン)	Original Article
130	Tajiri T, Mima K, Beppu T, et al	消化器外科	RAS-Beppu Classification: A New Recurrence Risk Classification System Incorporating the Beppu Score and RAS Status for Colorectal Liver Metastases.	Cancers (Basel). 2025 Feb 14;17(4):640. (オンライン)	Original Article
131	Beppu T, Masuda T, Imai K, et al	消化器外科	Clinical benefits of partial splenic embolization for cancer patients.	Hepatol Res. 2025 Jan;55(1):4–11.	Original Article
132	Horino T, Horiguchi H, Yumoto S, et al	消化器外科	Angiopoietin-Like Protein 2 Expression in Tumor Cells Supports Tumor-Associated Macrophage-Induced Tumor Progression in Esophageal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2024 Nov;31(12):7693–7704.	Original Article
133	Okabe H, Masuda T, Tomita M, et al	消化器外科	Combined Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Score Is Associated With Chemotherapeutic Response and Predicts Prognosis in Patients With Advanced Pancreatic Cancer.	Anticancer Res. 2024 Apr;44(4):1575–1582.	Original Article
134	Matsumoto T, Kitano Y, Imai K, et al	消化器外科	Prognostic impact of aspirin in patients with hepatocellular carcinoma after liver resection: propensity-score-matched analysis.	Int J Clin Oncol. 2025 Jan;30(1):92–98.	Original Article
135	Horino T, Tokunaga R, Miyamoto Y, et al	消化器外科	Advanced Lung Cancer Inflammation Index: A Novel Comprehensive Biomarker of Host Status for Patients with Metastatic Colorectal Cancer.	J Anus Rectum Colon. 2024 Jul 30;8(3):137–149. (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
136	Yumoto S, Horiguchi H, Kadomatsu T, et al	消化器外科	Host ANGPTL2 establishes an immunosuppressive tumor microenvironment and resistance to immune checkpoint therapy.	Cancer Sci. 2024 Dec;115(12):3846–3858.	Original Article
137	Ono K, Hiyoshi Y, Ono A, et al	消化器外科	Locally advanced rectal cancer in a young adult affected with dyskeratosis congenita (Zinsser–Cole–Engman syndrome): a case report.	Surg Case Rep. 2024 Sep 6;10(1):206. (オンライン)	Original Article
138	Hara Y, Baba Y, Oda E, et al	消化器外科	Presence of <i>Fusobacterium nucleatum</i> in relation to patient survival and an acidic environment in oesophagogastric junction and gastric cancers.	Br J Cancer. 2024 Sep;131(5):797–807.	Original Article
139	Sugawara Y	小児外科	A Liver Graft Should Not Be Selected by the Side but Determined by Volume in Adult Living Donor Liver Transplantation.	Transplantation. 2025 Jan 1;109(1):108–109.	Original Article
140	Sugawara Y, Hibi T	小児外科	Recent trends and new developments in liver transplantation.	Biosci Trends. 2024 Jul 9;18(3):206–211.	Original Article
141	Kadohisa M, Inomata Y, Irie T, et al	小児外科	Right Posterior Segment Graft in Adult Living–Donor Liver Transplantation: A Report of 17 Years of Experience at a Single Institution.	Exp Clin Transplant. 2024 Oct;22(10):786–793.	Original Article
142	Adawy A, Komohara Y, Hibi T	小児外科	Tumor–associated macrophages: The key player in hepatoblastoma microenvironment and the promising therapeutic target.	Microbiol Immunol. 2024 Aug;68(8):249–253.	Original Article
143	Hibi T	小児外科	Indications and recipient outcomes of adult left lobe living donor liver transplantation.	Updates Surg. 2025 Jan 31.	Original Article
144	Shimata K, Yoon YI, Hibi T, et al	小児外科	A novel scoring system to predict short–term mortality after living donor liver transplantation for acute liver failure.	Am J Transplant. 2024 Oct;24(10):1857–1867.	Original Article
145	Yamamoto H, Isono K, Honda M, et al	小児外科	Impact of Altered Graft Position During Living Donor Liver Retransplantation and its Outcomes.	Transplant Proc. 2025 Mar;57(2):284–291.	Original Article
146	Tang J, Funasaki S, Nishizawa H, et al	泌尿器科	ARID2 Deficiency Enhances Tumor Progression via ERBB3 Signaling in TFE3–Rearranged Renal Cell Carcinoma.	Curr Issues Mol Biol. 2024 Dec 2;46(12):13675–13695. (オンライン)	Original Article
147	Nishizawa H, Funasaki S, Ma W, et al	泌尿器科	HIF1 \pm Plays a Crucial Role in the Development of TFE3–Rearranged Renal Cell Carcinoma by Orchestrating a Metabolic Shift Toward Fatty Acid Synthesis.	Genes Cells. 2025 Jan;30(1):e13195.	Original Article
148	Ibe Y, Ozaki Y, Anami T, et al	泌尿器科	Aging potentially reduces CD169 expression in sinus macrophages of pelvic lymph nodes.	Med Mol Morphol. 2025 Mar 24.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
149	Fujiyama N, Matsuo O, Yamashita T, et al	小児科	Serum brain natriuretic peptide levels may be a useful marker for early diagnosis of cardiomyopathy secondary to neuroblastoma: A case report.	Clin Case Rep. 2024 Apr 26;12(5):e8738. (オンライン)	Case Report
150	Hattori Y, Kido J, Sugawara K, et al	小児科	Rapid genotyping of inversion variants in Mucopolysaccharidosis type II using long-range PCR: A case report.	Mol Genet Metab Rep. 2024 Aug 31;41:101139. (オンライン)	Case Report
151	Yoshida T, Kido J, Ogata M, et al	小児科	Safety of Oral Food Challenges for Individuals with Low Levels of Cow's Milk-Specific Immunoglobulin E Antibodies.	Int Arch Allergy Immunol. 2024 Nov 13:1-8.	Original Article
152	Ogata M, Kido J, Yoshida T, et al	小児科	The efficacy and safety of stepwise oral food challenge in children with hen's egg allergy.	Allergy Asthma Clin Immunol. 2024 Dec 18;20(1):67. (オンライン)	Original Article
153	Ogata M, Kido J, Watanabe S, et al	小児科	The Efficacy and Safety of Stepwise Oral Food Challenge in Children with Cow's Milk Allergy.	Int Arch Allergy Immunol. 2025;186(3):232-242. March 2025	Original Article
154	Noda Y, Kido J, Sawada T, et al	小児科	Newborn screening for hypophosphatasia: development of a high-throughput tissue nonspecific alkaline phosphatase activity assay using dried blood spots.	JBMR Plus. 2024 Dec 28;9(3):ziae172. (オンライン)	Original Article
155	Miyashita Y, Yanagida K, Shirafuji N, et al	小児科	Ultrasonography is an effective tool for breast cancer screening in individuals with severe motor and intellectual disabilities.	J Appl Res Intellect Disabil. 2024 May;37(3):e13234.	Original Article
156	Kuraoka S, Oda M, Ohba T, et al	小児科	Association between prenatal mercury exposure and pediatric neurodevelopment: The Japan environment and children's study.	Sci Total Environ. 2024 Dec 20;957:177489.	Original Article
157	Kuraoka S, Oda M, Ohba T, et al	小児科	Association of phenol exposure during pregnancy and asthma development in children: The Japan Environment and Children's study.	Environ Pollut. 2024 Nov 15;361:124801.	Original Article
158	Yoshimura S, Shimada R, Kikuchi K, et al	婦人科	Atypical heat shock transcription factor HSF5 is critical for male meiotic prophase under non-stress conditions.	Nat Commun. 2024 Apr 29;15(1):3330. (オンライン)	Original Article
159	Tanimura S, Tokunaga T, Fukuma Y, et al	整形外科	Aging negatively affects postoperative recovery of biomechanical strength through decreased recruitment of scleraxis(+)/SRY-box-containing gene 9(+) enthesis-related progenitors after rotator cuff repair in rats.	J Shoulder Elbow Surg. 2024 Dec 3:S1058-2746(24)00870-X.	Original Article
160	Miyamoto T	整形外科	Osteoporosis and Rheumatoid Arthritis: Mechanisms Underlying Osteoclast Differentiation and Activation or Factors Associated with Hip Fractures.	J Clin Med. 2025 Feb 10;14(4):1138. (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
161	Hayashi D, Kashiwada- Nakamura K, Noguchi H, et al	形成外科	Onychomycosis caused by Aspergillus species belonging to section Circumdati.	J Dermatol. 2025 Mar;52(3):536–540.	Case Report
162	Sawamura S, Myangat TM, Kajihara I, et al	形成外科	Elevation of circulating DNAs of disease-associated cytokines in serum cell-free DNA from patients with alopecia areata.	Biosci Trends. 2024 Jun 6;18(2):198–200.	Original Article
163	Tanaka K, Kajihara I, Shimokawa K, et al	形成外科	Genetic intratumour heterogeneity and clonal evolution in extramammary Paget's disease.	Eur J Dermatol. 2024 Apr 1;34(2):182–192.	Original Article
164	Urata K, Myangat TM, Kajihara I, et al	形成外科	Increased circulating interleukin 36I3 DNA copies in psoriasis.	J Dermatol. 2025 Feb 20.	Letter
165	Mizuhashi S, Miyashita A, Kuriyama H, et al	形成外科	Metastasis to hypopharynx from epidermotropic metastatic malignant melanoma.	Drug Discov Ther. 2024 Jun 6;18(2):140–142.	Case Report
166	Urahashi M, Fujimoto T, Inoue-Mochita M, et al	眼科	Effect of the IL-6 trans-signaling pathway in the absence or presence of TGF-β2 on Schlemm's canal endothelial cells.	Exp Eye Res. 2025 Feb;251:110215.	Original Article
167	Miyamaru S, Murakami D, Nishimoto K, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Identifying factors for pembrolizumab eligibility in head and neck cancer.	J Cancer Res Clin Oncol. 2025 Feb 7;151(2):67. (オンライン)	Original Article
168	Ooyama T, Hirayama M, Seki Y, et al	歯科口腔外科	Pretreatment nutritional indices are associated with survival and T-cell exhaustion in recurrent or metastatic oral squamous cell carcinoma patients treated with immune checkpoint inhibitors: a retrospective cohort study.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2025 Feb 11:S0901–5027(25)00011–6.	Original Article
169	Morodomi S, Hirosue A, Rahman A, et al	歯科口腔外科	Robust HPV-16 Detection Workflow for Formalin-Fixed Cancer Tissue and Its Application for Oral Squamous Cell Carcinoma.	Cancer Med. 2025 Feb;14(4):e70544.	Original Article
170	Kobayashi N, Nakaura T, Shiraishi K, et al	画像診断・治療科	A Novel Approach to Detecting Contrast Extravasation in Computed Tomography: Evaluating the Injection Pressure-to-Injection Rate Ratio.	J Comput Assist Tomogr. 2025 Jan–Feb 01;49(1):125–132.	Original Article
171	Nakaura T, Naganawa S	画像診断・治療科	Response to letter to the editor from Dr. Muhammed Said BeA?ler: 'the accuracy of large language models in RANZCR's clinical radiology exam sample questions'.	Jpn J Radiol. 2024 Sep;42(9):1081–1082.	Letter
172	Hokamura M, Nakaura T, Yoshida N, et al	画像診断・治療科	Super-resolution deep learning reconstruction approach for enhanced visualization in lumbar spine MR bone imaging.	Eur J Radiol. 2024 Sep;178:111587.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
173	Nagayama Y, Ishiuchi S, Inoue T, et al	画像診断・治療科	Super-resolution deep-learning reconstruction with 1024 matrix improves CT image quality for pancreatic ductal adenocarcinoma assessment.	Eur J Radiol. 2025 Mar;184:111953.	Original Article
174	Nagayama Y, Hokamura M, Taguchi N, et al	画像診断・治療科	Liver function estimation using multiphase hepatic CT: diagnostic performance of iodine-uptake and volumetric parameters.	Eur Radiol. 2025 Mar 13.	Original Article
175	Nakaura T, Hirai T	画像診断・治療科	Response to Letter to the Editor from Muhammed Said BeA?ler et al.: "The Performance of the Multimodal Large Language Model GPT-4 on the European Board of Radiology Examination Sample Test".	Jpn J Radiol. 2024 Aug;42(8):928.	Letter
176	Oda S, Chikamoto A, Khant ZA, et al	画像診断・治療科	Clinical Impact of Radiologist's Alert System on Patient Care for High-risk Incidental CT Findings: A Machine Learning-Based Risk Factor Analysis.	Acad Radiol. 2025 Jan;32(1):112-119.	Original Article
177	Ishiuchi S, Uetani H, Shinojima N, et al	画像診断・治療科	Usefulness of 3T split acquisition fast spin-echo diffusion-weighted imaging for differentiating pituitary abscess from other sellar cystic lesions: a preliminary study.	Neuroradiology. 2025 Mar 21.	Original Article
178	Nagayama Y, Uchimura R, Maruyama N, et al	画像診断・治療科	Non-contrast spectral CT vs chemical-shift MRI in discriminating lipid-poor adrenal lesions.	Eur Radiol. 2025 Jan;35(1):370-380.	Original Article
179	Yoshimura F, Oda S, Kidoh M, et al	画像診断・治療科	Non-invasive Imaging Findings of Wild-type Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy in Women: A Retrospective Study.	Acad Radiol. 2025 Mar 29:S1076-6332(25)00205-3.	Original Article
180	Kidoh M, Oda S, Sueta D, et al	画像診断・治療科	Serial assessment of coronary artery inflammation using cardiac CT in anthracycline chemotherapy for breast cancer.	Eur Radiol. 2025 Jan 21.	Original Article
181	Tamura Y, Kiyosue H, Ikeda O, et al	画像診断・治療科	Endovascular Treatment of Unruptured Pancreatic Arcade Aneurysms.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2024 Sep;47(9):1173-1180.	Original Article
182	Hayashi H, Kiyosue H, Tamura Y, et al	画像診断・治療科	Duplicated Cervical Internal Carotid Artery with Ipsilateral Persistent Stapedial Artery and Contralateral Aberrant Internal Carotid Artery: A Case Report.	J Neuroendovasc Ther. 2025;19(1):2024-0091. Released on J-STAGE: February 01, 2025	Case Report
183	Kanaya H, Shiraishi S, Ogasawara K, et al	画像診断・治療科	Inverse correlation between age of onset and myocardial amyloid deposition quantified by (99m)Tc-PYP scintigraphy in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Ann Nucl Med. 2024 Sep;38(9):744-753.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
184	Sasaki G, Uetani H, Kuroda JI, et al	画像診断・治療科	Dynamic susceptibility contrast perfusion MRI helps in differentiating double-expressor from non-double-expressor subtypes in primary central nervous system lymphoma.	Neuroradiology. 2025 Mar;67(3):541–551.	Original Article
185	Kidoh M, Oda S, Tabata N, et al	画像診断・治療科	CT-derived extracellular volume fraction in aortic stenosis, cardiac amyloidosis, and dual pathology.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2025 Mar 3;26(3):509–517.	Original Article
186	Nakaura T, Hirai T	画像診断・治療科	Response to Letter to the Editor from Partha Pratim Ray: 'Integrating AI in radiology: insights from GPT-generated reports and multimodal LLM performance on European Board of Radiology examinations'.	Jpn J Radiol. 2024 Sep;42(9):1085–1086.	Letter
187	Oka T, Kubo T, Kobayashi N, et al	神経精神科	Decoding and modifying dynamic attentional bias in gaming disorder.	Philos Trans R Soc Lond B Biol Sci. 2024 Dec 2;379(1915):20230090.	Original Article
188	Imaoka Y, Ren N, Ogata S, et al	脳神経外科	CHA(2)DS(2)–VASC score and prior oral anticoagulant use on endovascular treatment for acute ischemic stroke.	Ann Clin Transl Neurol. 2024 Dec;11(12):3103–3114.	Original Article
189	Matsuura J, Akichika S, Wei FY, et al	脳神経外科	Human DUS1L catalyzes dihydrouridine modification at tRNA positions 16/17, and DUS1L overexpression perturbs translation.	Commun Biol. 2024 Oct 2;7(1):1238. (オンライン)	Original Article
190	Matsuzaki H, Pan C, Komohara Y, et al	脳神経外科	The roles of glioma-associated macrophages/microglia and potential targets for anti-glioma therapy.	Immunol Med. 2025 Mar;48(1):24–32.	Original Article
191	Inoue H, Kuroda JI, Fujioka Y, et al	脳神経外科	Drug-resistant BRAF V600E-mutant recurrent pleomorphic xanthoastrocytoma, CNS WHO Grade 3 successfully resolved with incidental discontinuation of combined BRAF and MEK inhibitor therapy.	Surg Neurol Int. 2024 Nov 15;15:417. (オンライン)	Case Report
192	Kameno K, Kaku Y, Ohmori Y, et al	脳神経外科	Artificial dural regeneration matrix as a substitute for autologous tissue in indirect bypass in Moyamoya disease: Investigation of a rat model of chronic cerebral hypoperfusion.	Neurosurg Rev. 2025 Jan 14;48(1):48. (オンライン)	Original Article
193	Tashima K, Hayashi M, Oyoshi T, et al	麻酔科	Anesthesia management for percutaneous mitral valve repair in a patient with mitochondrial cardiomyopathy and low cardiac function: a case report.	JA Clin Rep. 2024 Aug 8;10(1):49. (オンライン)	Original Article
194	Miyamoto Y, Kawasaki T, Nakamura S, et al	麻酔科	Delayed recovery of consciousness from anesthesia due to exacerbation of hydrocephalus caused by a ventriculoperitoneal shunt malfunction during general anesthesia in the prone position: a case report.	JA Clin Rep. 2024 Aug 20;10(1):51. (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
195	Hara M, Ikuta Y, Hirata N	麻酔科	The impact of the pore position of a self-coiling catheter for continuous interscalene brachial plexus block on postoperative pain in patients undergoing arthroscopic rotator cuff repair surgery: a prospective observational study.	J Anesth. 2025 Feb 22.	Original Article
196	Yuruki T, Fujimoto M, Hirata N	麻酔科	The Effect of Remimazolam on the Baseline TOF Ratio: A Prospective, Clinical Study.	Anesthesiol Res Pract. 2024 Nov 28;2024:9990140. (オンライン)	Original Article
197	Shiroshita Y, Yonezawa K, Ota E, et al	看護部	Effects of automatic heel lancet on invasiveness in neonates: A systematic review and meta-analysis.	Acta Paediatr. 2024 Aug;113(8):1750-1756.	Original Article
198	Fukushige M, Lu X, Satoh M, et al	看護部	Association between antinuclear antibodies status and preterm birth in Japanese pregnant women: a prospective cohort study from Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study.	BMC Pregnancy Childbirth. 2024 Dec 28;24(1):879. (オンライン)	Original Article
199	Kakizoe Y, Okagawa H, Yamamoto M, et al	腎臓内科	Effects of supportive hemodialysis on the management of a pregnant woman with advanced chronic kidney disease: a case report and literature review	RENAL REPLACE THER.2024 OCT:10(1):8	Review
200	Nakamoto M, Hirose A, Tanaka K, et al	歯科口腔外科	A case of drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS) following stomatitis	J ORAL MAX SURG MED.2025 MAR:37(2):7	Original Article
201	Takeshita H, Yoshida R, Maeshiro M, et al	歯科口腔外科	True facial artery aneurysm of the submandibular region: A rare case report	J ORAL MAX SURG MED.2024 NOV:36(6):5	Original Article

計201件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名・出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること)。
記載例：Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)					
番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	日高 秀昭,岩橋 啓介,新崎 翔吾 他	心臓血管外科	2024年働き方改革は始まった 若手心臓血管外科医の今	日本心臓血管外科学会雑誌;2024.09:53:U1-U6	Original Article
2	廣田 貴史,堀部 達也,日高 秀昭 他	心臓血管外科	大腿深動脈瘤破裂に対する1手術例	脈管学;2024.10:64:107-110	Original Article
3	式地 優樹,小澄 敬祐,大町 一樹 他	消化器外科	多発血管炎性肉芽腫症を伴う進行食道癌の1例	手術;2025.01:79:107-113	Original Article
4	磯野 香織,本田 正樹,日比 泰造	小児外科	【門脈血行異常に対する治療up to date】当科で経験した先天性門脈体循環シャント5例の検討	小児外科;2024.05:56:518-522	Original Article
5	五嶋 恵佑,田村 博,古家 圭士郎 他	小児科	腎性低尿酸血症による運動後急性腎障害をきたした1例報告と文献調査	日本小児腎不全学会雑誌;2024.08:44:147-150	Original Article
6	金澤 早織,野口 博光,池田 優香 他	皮膚科	鼻部の毛孔開大に対するカーボンオイルを併用したピコ秒レーザーによる治療経験	Aesthetic Dermatology;2024.12:34:536-541	Original Article
7	高田 遼,古島 京佳,竹下 哲二	眼科	眼窩蜂窩織炎を合併した涙腺膿瘍と考えられた1例	眼科;2024.12:66:1637-1640	Original Article
8	田村 吉高,清末 一路,佐々木 剛 他	画像診断・治療科	エキスパートによるIVR症例集 膀胱性囊胞術中、上腸間膜静脈損傷に対して血管形成術を行った1例	Rad Fan;2024.07:22:85-88	Original Article
9	諸岡 慎士,佐藤 英明,荻野 肇 他	神経精神科	私のカルテから 治療抵抗性統合失調症に対し電気けいれん療法後に持効性注射剤を導入し寛解を維持した一例	九州神経精神医学;2024.04:69:108-110	Original Article
10	賀来 泰之,岳元 裕臣,亀野 功揮 他	脳神経外科	もやもや病の血行再建術中のプロポフオールの投与量が術後のFLAIR画像に及ぼす影響	脳卒中の外 科;2024.09:52:359-364	Original Article
11	北川内 優佳,竹村 侑紀,福嶋 理香 他	中央検査部	(1→3)-β-D-グルカン測定試薬「β-グルカンシングルM30テストワコー」の基礎的検討	医学検査;2024.04:73:271-277	Original Article
12	宮里 祐子,簗島 弘,中村 美和 他	病理部	S状結腸癌の卵巣転移と、排卵誘発に伴う黄体化過剰反応が併存した1例	診断病理;2024.10:41:324-329	Original Article
13	岡崎 菜紗,川上 史,安里 翠晴 他	病理部	子宮体部中腎様腺癌5例の臨床病理学的検討	診断病理;2024.04:41:126-132	Original Article
14	澤田 貴彰,中村 公俊	遺伝診療センター	わが国におけるPompe病の新生児スクリーニングの現状と課題	日本小児科学会雑誌;2024.10:128:1274-1283	Review
15	西村 文宏,尾田 一貴,牛島 智子 他	薬剤部	心臓血管外科手術において手術部位感染予防抗菌薬でパンコマイシン塩酸塩の薬物血中濃度モニタリングを実施した1例	TDM研究;2024.09:41:66-71	Original Article
16	川俣 祐貴,池田 龍二,柄原 秀一 他	医療技術部	CT線量管理における線量値算出アプリケーションの開発 プロトコルが Diagnostic Reference Level(DRL)と異なる場合への対応	日本放射線技術学会雑誌;2024.09:80:928-936	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
17	片渕 達也,田尻 沙織,橋向 圭介 他	医療技術部	脳腫瘍におけるsemi-automated CISH法による1p/19q共欠失解析の基礎的検討	医学検査;2024.10:73:764-769	Original Article
18	山鹿 慎也,久木山 直貴,階子 俊平 他	消化器内科	肝門部領域胆管癌との鑑別に苦慮した断端神経腫の1例	日本消化器病学会雑誌;2024.10:121:842-850	Original Article
19	阪口 雅司,岡川 章太,窪田 直人	糖尿病・代謝・内分泌内科	肥満研究の最前線 脂肪細胞研究の最前線	肥満研究;2024.04:30:14-19	Review
20	岩槻 政晃,小澄 敬祐,問端 輔 他	消化器外科	気管食道科領域の表在癌・多重癌を考える:発がんのメカニズムを考えた診療のあり方は? 頭頸部・食道癌に対する咽頭喉頭食道全摘術の治療成績の検討	日本気管食道科学会会報;2024.04:75:169-171	Original Article
21	岩槻 政晃	消化器外科	消化管癌に対するゲノム医療の現状と展望	日本消化管学会雑誌;2024.09:8:5-12	Review
22	堀野 大智,宮本 裕士,大内 繩子 他	消化器外科	肛門管腺癌の原発切除症例における術後長期成績の検討	日本大腸肛門病学会雑誌;2025.01:78:14-21	Original Article
23	牧野 耕,穴見 俊樹,脊川 卓也 他	泌尿器科	縦隔胚細胞腫瘍の1例	西日本泌尿器科;2024.08:86:325-328	Original Article
24	田中 大樹,倉橋 竜磨,穴見 俊樹 他	泌尿器科	一側腎に異なる腎腫瘍が併発していた2例	西日本泌尿器科;2024.12:87:78-82	Original Article
25	前田 菜々,岩越 裕,山元 康寛 他	産科	良好な妊娠転帰を得た広範囲の脈管病変を伴うKlippel-Trenaunay-Weber症候群合併妊娠の1例	日本周産期・新生児医学会雑誌;2024.12:60:490-494	Original Article
26	山口 宗影,相良 昭仁,近藤 英治	産科	エビデンスに基づいた産科出血への対応 産科出血における弛緩出血ならびに分娩後動脈性子宮出血(PRACE)の臨床像の解析	日本周産期・新生児医学会雑誌;2024.04:59:817-820	Original Article
27	山口 宗影,相良 昭仁,大場 隆 他	産科	HDP診断・治療・フォローアップの最前线 本邦における妊娠初期の高血圧合併妊娠の管理方針の検討 多機関前向き観察研究「妊娠初期の血圧が妊娠転帰に及ぼす影響の検討」からの中間報告	日本周産期・新生児医学会雑誌;2024.04:59:860-863	Original Article
28	松永 仁美,市村 知佳,城野 剛充 他	皮膚科	外用治療や手術療法で治癒したBCG肉芽腫2例の検討	西日本皮膚科;2024.10:86:498-502	Original Article
29	浦田 和美,金子 彰良,梶原 一亨 他	皮膚科	頭部血管肉腫肺転移による難治性気胸に対し外科手術が奏効した1例	臨床皮膚科;2024.12:78:1011-1015	Original Article
30	下田 健文,瀧原 祐史,浦橋 佑衣 他	眼科	非器質的視機能障害の診断における片眼遮蔽下と両眼開放下の視野検査同時施行の有用性	臨床眼科;2024.07:78:893-898	Original Article
31	幸野 香織,伊勢 桃子,折田 賴尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	真珠腫性中耳炎から脳膿瘍を形成した2例	耳鼻咽喉科臨床;2024.05:117:403-409	Original Article
32	吉田 遼司,井上 淳貴,中山 秀樹	歯科口腔外科	口腔癌の再発を減らす切除の工夫 舌リンパ節への対応	日本口腔外科学会雑誌;2024.11:70:458-465	Review
33	佐々木 由加子,古賀 裕作,三角 雅裕 他	神経精神科	私のカルテから 治療抵抗性の双極性うつ病に対して修正型電気けいれん療法施行中に躁転した一例	九州神経精神医学;2024.08:69:151-153	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能 病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
34	藤本 りいと,大嶋 悠太,島本 祐希 他	神経精神科	私のカルテから 妄想性うつ病に対し 修正型電気けいれん療法およびプロナ ンセリン経皮吸収型製剤による薬物療 法が有効であった一例	九州神経精神医 学;2024.12:70:19-22	Original Article

計34件

(注)

1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	○・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	○・無
<ul style="list-style-type: none">手順書の主な内容 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務 人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順 研究開始から終了に係る業務手順 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年10回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	○・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	○・無
<ul style="list-style-type: none">規定の主な内容 熊本大学大学院生命科学研究部等医学系研究利益相反委員会の設置 臨床研究に係る利益相反申告書の提出 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年680回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容 令和2年・3年個人情報保護法の改正に伴う生命・医学系指針の改正について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・英語論文の抄読会
- ・新患カンファレンス
- ・手術カンファレンス
- ・病理カンファレンス
- ・画像診断カンファレンス
- ・リサーチカンファレンス
- ・症例検討会
- ・実習トレーニング
- ・スキルアップセミナー
- ・各種勉強会
- ・教員レクチャー など

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	172.08人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診 療 科	役 職 等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	27年	
田中 靖人	消化器内科	教授	33年	
安永 純一朗	血液内科	教授	29年	
安永 純一朗	膠原病内科	教授	29年	
横井 秀基	腎臓内科	教授	29年	
窪田 直人	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	30年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	26年	
植田 光晴	脳神経内科	教授	25年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	30年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	35年	
岩楓 政晃	消化器外科	教授	23年	
山本 豊	乳腺・内分泌外科	教授	33年	
日比 泰造	小児外科	教授	26年	
日比 泰造	移植外科	教授	26年	
神波 大己	泌尿器科	教授	32年	
近藤 英治	婦人科	教授	26年	
中村 公俊	小児科	教授	34年	
近藤 英治	産科	教授	26年	
宮本 健史	整形外科	教授	36年	
福島 聰	皮膚科	教授	26年	
増口 信一	形成外科	講師	26年	
井上 俊洋	眼科	教授	27年	
折田 賴尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	28年	
中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	28年	

白石 慎哉	画像診断・治療科	講師	29年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	37年	
竹林 実	神経精神科	教授	32年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	30年	
平田 直之	麻酔科	教授	24年	
田中 靖人	中央検査部	教授	33年	
入江 弘基	救急部	教授	29年	
三上 芳喜	病理部	教授	34年	
宮本 健史	リハビリテーション部	教授	36年	
松井 邦彦	総合診療科	教授	35年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

職員研修を目的として、定期的に新薬説明会、薬の勉強会、薬剤管理指導検討会、病棟業務関連研修等を開催している。

【看護部】

教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、実施している。

【中央検査部】

特定機能病院として高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修を実施しており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。

【中央放射線部】

特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。

【ME機器センター】

特定機能病院として安全な医療機器の取り扱い体制を構築するため、研修計画を策定し実施している。

・研修の期間・実施回数

【薬剤部】 別紙（1）のとおり

【看護部】 別紙（2）のとおり

【中央検査部】 別紙（3）のとおり

【中央放射線部】 別紙（4）のとおり

【ME機器センター】 別紙（5）のとおり

・研修の参加人数

【薬剤部】 別紙（1）のとおり

【看護部】 別紙（2）のとおり

【中央検査部】 別紙（3）のとおり

【中央放射線部】 別紙（4）のとおり

【ME機器センター】 別紙（5）のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容・・・「接遇」、「医療機器の安全な使用について」、「院内感染対策」、「医療安全管理」、「個人情報保護」及び「虐待」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる。
- ・研修の期間・実施回数・・・令和6年4月1日（月）外 ※採用者があり次第、隨時実施
- ・研修の参加人数・・・287名
(内訳：令和6年4月1日採用者141名、中途採用者99名、復職者47名)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類
 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

令和6年度の実績

【薬剤部】					
NO	研修名	期間	実施回数	参加数	
1	2024年度育児休業取得後の復職者に 対する集中講義 (初期研修プログラム)	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	2回	4名	
2	2024年度新採用職員に対する集中講 義・研修 (初期研修プログラム)	令和6年4月1日(月) ～ 令和6年4月5日(金)	1回	3名	
3	薬剤管理指導検討会	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	10回	230名	
4	病棟薬剤業務スキルアップ研修	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	9回	201名	
5	新薬説明会	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	30回	905名	
6	くすりの勉強会 (必要に応じて開催)	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	6回	146名	
7	医療安全研修	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	11回	573名	
8	調剤補助業務に従事する技術補佐員 のための研修	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	2回	20名	
9	熊本大学病院薬剤部・地域医療連携 研修会	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	2回	96名	
10	病院薬剤師業務フローリアップ研修 会 (初期研修プログラム)	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	1回	7名	
11	BLS研修	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	2回	71名	
12	接遇	令和6年4月1日(月) ～ 令和7年3月31日(月)	2回	43名	

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修人数	研修時間
新規採用者 才リエンシージヨン	2024年度新規採用者 2023年度中途採用者 (2024年4月採用者)	病院・看護部の組織・方針、病棟と各部門との関係、看護支援システムへの概念および看護記録、院内教育、医療業務及び医療関係法令、病院全体の組織、就業規則、中央部門の看護関連部門、接遇、マナー	病院・看護部の組織・方針、病棟と各部門との関係、看護支援システムへの概念および看護記録、院内教育、医療業務及び医療関係法令、病院全体の組織、就業規則、中央部門の看護関連部門、接遇、マナー	講義	4/1(月)～4/5 (金)	医療の質・安全管理部、医療技術部門長、事務職員、看護部、教育支援室、中央部門看護師長	東病棟12階多目的ホール	新規採用者:68人 中途採用者:4名 (一部参加)	21時間20分
看護情報	2024年度新規採用看護師	・看護における個人情報保護 記録のあり方と取り扱いに ついて理解する ・メール利用時の注意点 について理解できる	1)看護記録とは何かを 記録のあり方と取り扱いに ついて理解する 2)電子カルテと情報セキュリティ 4)メール利用時の注意点	講義 講義	4/3(水) 11:00～12:00	看護部 情報担当 中西智子看護師長	東病棟12階多目的ホール	72人	1時間
看護倫理	2024年度新規採用看護師	看護職の倫理とは何かを 理解し、日常の看護ケアとして どのように行動すべきかを学ぶ	1)看護職の倫理綱領 2)看護ケアにおける倫理的問題 実践事例の検討	グループワーク グループワーク	4/3(水) 13:00～14:30	がん看護専門看護師 岡本泰子看護師長	東病棟12階多目的ホール	72人	1時間30分
基礎研修 社会人としての 基本姿勢・医療接遇・マナー	2024年度新規採用看護師 2023年度中途採用者	1)組織における役割、心 構えを理解し、社会の中で 働くということが理解でき る 2)社会人としてまたは組 織の一員として自覚と責任 ある行動が取れる 3)医療人として基本的に 接遇、マナーを身につける ことができる	1)組織としての心構えと組織に おける役割 ・社会人としての心構えと組織に おける役割 ・コミュニケーションのとり方 ・専門職業人としての基本的姿勢 と態度 ・医療者にとって必要な接遇、マ ナーについて について理解する	講義 演習	4/3(水) 14:40～16:30	看護教育支援室 上田麻子副看護師長	東病棟12階多目的ホール	66人	1時間50分
現場における医療安全	2024年度新規採用看護師 2023年度中途採用者	医療安全管理に関する基 本的な考え方を理解する	組織における医療安全	講義 演習	4/4(木) 8:30～10:30	医療の質・安全管理部 GRM 森山嘉子看護師 長	東病棟12階多目的ホール	75人	2時間
新人看護師のための メンタルヘルス研修	2024年度新規採用看護師	メンタルヘルスとは何かを 知り、自身の心の健康状 態に気づきストレスに対応 できる	・ストレスヒンターヘルス不調 ・セルフケア(ストレス対処法、考 え方のクセなど) ・話すことの効果	グループワーク グループワーク	4/4(木) 10:45～11:45	医療の質・安全管理部 臨床心理士 —美奈緒先生	東病棟12階多目的ホール	66人	1時間

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新人看護師のための バイタルサイン測定研修	2024年度新規採用看護師	1)バイタルサインの意義が理解できる 2)バイタルサイン測定の正しい手技を獲得できること 3)臨床実践に活かすことができる	・バイタルサインの意義 ・バイタルサイン測定(演習)	講義 演習	4/4(木) 13:00～14:00	看護教育支援室 吉村聰美看護師	東病棟12階多目的ホール	66人	1時間
感染対策基礎研修	2024年度新規採用看護師 2023年度中途採用者	感染対策の基本を理解し、感染予防のための手指衛生と個人防護具の着脱の実践ができる	1)院内感染対策の基本 2)標準予防対策と感染経路別予防対策 3)針刺し・血液液体暴露防止対策 4)医療廃棄物の分別方法・取扱い方法 5)演習(個人防護具の着脱方法・手指消毒)	講義 演習	4/5(金) 9:30～12:30	感染制御部 感染管理認定看護師 藤本陽子看護師長 手塚美奈副看護師 吉田真由美看護師	東病棟12階多目的ホール	74人	3時間
情報システム関連 パソコン操作研修	2024年度新規採用看護師	KAIJUの基本操作 が、日常業務に活用できる	1)KAIJUの基本操作 2)診療録参照方法のデモンストレーション ・操作演習 ・ガルーンの掲示板閲覧方法ヒメ ・アウトックールの送受信方法	講義 演習	4/8(木) 部署ごとに設定した 2時間前後	看護情報リシナース	各部署	74人	2時間
看護記録基礎研修(STEP I)	2024年度新規採用看護師	看護記録の意義と重要性を理解し、観察した患者状態を記録できる	・看護記録の意義 ・バイタルサイン測定後の記録	e-ラーニング 演習	4/16(火) 部署で1時間以内	野田道代看護師長、 看護情報委員会	各部署	63人	1時間

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
与薬の基本	2024年度新規採用看護師	1)医薬品の基本的特徴を知り、与薬のために必要な情報を得ることができる 2)医療用麻薬、向精神薬・毒薬・劇薬の種類と保管・管理方法 3)与薬のために必要な情報収集(医薬品添付文書の活用、情報の入手方法) 4)薬剤投与とインシデント	1)看護師に必要な薬の基礎知識(医薬品の分類、薬の吸収と血中濃度、副作用、剤形の種類など) 2)医療用麻薬、向精神薬・毒薬・劇薬の種類と保管・管理方法 3)与薬のために必要な情報収集(医薬品添付文書の活用、情報の入手方法)	講義 4/18(木) 13:00~15:00 薬剤部 宮本晋治先生 弟子丸恵実先生	66人 東病棟12階多目的ホール 2時間				
糖尿病看護基礎研修	2024年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	・糖尿病とは ・インスリン療法の基礎知識 ・糖尿病治療薬について ・糖尿病看護マネージメント	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	講義 4/18(木) 15:15~16:45 藤本美枝糖尿病看護認定看護師	66人 東病棟12階多目的ホール 1時間30分				
新規採用看護師基礎研修(注射・与薬・輸液ポンプ)	2024年度新規採用看護師	1)注射・与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2)輸液ポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす	1)注射・与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2)輸液ポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす	講義演習 4/20(土) 8:00~16:45 各部署の副看護師長、看護部安全対策委員会 全対策委員会	66人 東病棟12階多目的ホール 各部署演習室 7時間45分				
心電図モニター基礎研修	2024年度新規採用看護師	1)セントラルモニターとペッドサイドモニター、送信機について 2)心電図モニターとナースコールの連動について 3)心電図モニター装着時の取り扱いについて理解できる 4)心電図モニター装着中の管理について	心電図モニター使用時の取り決めと安全な管理について理解できる	e-ラーニング 5/13(月)~ 5/27(月) 部署での演習 e-ラーニング 5/13(月)~ 5/27(月) 部署での演習 各部署 山下大輔 看護部安全リンクナース	63人 各部署 2時間				

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新人メンタルヘルスフローラー アップ・ピアカウンセリング	2024年度新規採用看護師	1)自分が抱えているストレスの存在を認知する 2)考え方の傾向を知り、客観的に物事を認知していく 3)力を身に付ける 4)アカウンセリングを行なう 5)アリティシヨックを緩和する	・現在のストレス度チェック ・ストレスの現れ方とその対処方法 ・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	講義 グループワーク	6/5(水) 8:30~10:30	医療の質・安全管理部 臨床心理士 一美奈緒子先生	東病棟12階多目的ホール	61人	2時間
社会人基礎力について	2024年度新規採用看護師	1)社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2)社会人として報告・連絡・相談を実施できる、心構えを理解する	・看護職としての社会人基礎力とは ・看護部理念をふまえた社会人としての基本姿勢について	講義 グループワーク 演習	6/5(水) 10:40~12:00	看護教育支援室 東美保子看護師長	東病棟12階多目的ホール	61人	1時間20分
IV基礎研修	2024年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	・安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術、態度を習得する ・本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮した行動がわからず ・静脈注射に対する行動がわからず ・静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理を理解し、実践にいかすことができる ・静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる ・緊急時の報告、連絡ができる	・静脈注射実施基準と法的責任。 ・静脈注射計画 ・静脈注射に必要な薬理作用の基礎知識 ・静脈注射に必要な緊急時の看護 ・静脈注射に必要な安全管理 ・静脈注射に必要な安全管理	講義 筆記試験	6/14(金) 9:00~16:00	救急部教授 入江弘基先生 薬剤部副薬剤部長 中村和美先生 看護部業務委員会 感染管理認定看護師 藤本陽子看護師長 GRM 森山嘉子看護師長 集中ケア認定看護師 田中貴子副看護師長	東病棟12階多目的ホール	62人	6時間
内服薬の基本	2024年度新規採用看護師	内服薬の正しい取り扱い、内服薬の作用、副作用、用法を知り、安全な薬物療法が実施できる	・内服薬の作用、副作用、用法 ・薬の保管、内服処方箋の見方 ・内服薬の管理	講義	7/5(金) 13:30~15:00	薬剤部薬剤師 政賀啓先生	東病棟12階多目的ホール	55人 補講受講者2人	1時間30分

基礎研修

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
PNS研修	2024年度新規採用看護師	PNS(パートナーシッピング・ナーシング・システム)について正しく理解し臨床看護実践に活かすことができる	•PNSの基本 •パートナーシッピング理論とは •パートナーシッピング・マインドの3つ •パートナーシッピングに必要な3要素	講義 グループワーク	7/5(金) 15:15～16:45	PNS委員会 谷川徹也看護師長	東病棟12階多目的ホール	56人 (100%) 補講受講者2人	1時間30分
看護記録基礎研修「情報収集の仕方と整理(ステップⅡ)」	2024年度新規採用看護師	看護過程の概念を学び、NANDA-Iの13領域にそつた情報収集と整理ができる	•看護過程とは •NANDA-Iの13領域にそつた情報収集と整理 •グループワーク(動画事例を用いた情報の整理)	講義 グループワーク 発表	7/9(火) 13:00～16:30	看護情報担当 中西智子看護師長	東病棟12階多目的ホール	53名 補講受講者4人	3時間30分
フィジカルアセスメント基礎研修	2024年度新規採用看護師	•フィジカルアセスメント基礎研修 1)フィジカルイグザミネーション技術を修得し正常と異常のアセスメントができる 2)呼吸・循環・意識・腹部のフィジカルアセスメントに必要な知識を学ぶ •BLS研修	•フィジカルアセスメント基礎研修 1)間診・観察・触診・聴診等に必要な講義 2)フィジカルイグザミネーション技術の演習 3)シミュレーションを活用した正常と異常の判断 •BLS(一次救命処置)の概要及び実技	講義 演習	8/27(火) 8/28(水) (※どちらか1日 に参加) 8:00～16:45	救急看護認定看護師 村上志穂看護師長 集中ケア認定看護師 田中貴子副看護師 急性・重症患者看護専門看護師 片岡早希子副看護師 長	中央診療棟7階 総合臨床研修センター・カンファレンス室・演習室	8/27:28人 8/28:28人	15時間30分
新人看護師のメンタルヘルス研修～心のメンテナンスをしよう～	2024年度新規採用看護師	1)メンタルヘルスにおけるセルフケア能力が向上する 2)ストレス対処法の獲得 3)仲間と共に思いを共有し、リラックスを図ることができる	•職場における心の健康づくり •職場におけるメンタルヘルス対策およびストレス対処法 •レジリエンス	講義 グループワーク	9/20(金) 13:30～16:30	福岡女学院看護大学 准教授 白井ひろ子先生	東病棟12階多目的ホール	55人	3時間

2024年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新人研修「看護の中の気づき～患者から学ぶ～」	2024年度新規採用看護師	事例の振り返りやグループディスカッションを通して、自己の課題を見直す・看護実践に活かせます	看護の中の気づき・事例を通して看護の振り返りをする・自己の課題を見直します	講義 グループワーク	11/16(土) 9:00～13:00	ロイアカデミア看護学研究センター長 聖マリア学院大学看護学部学事顧問 日高麗子先生 グレーブワークアンリーダー：教育委員、教育担当副看護師長	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2、3・看護部多目的室・中央診療棟(階丸アレンス室)・演習室(1～11)・シミュレーション室1	57人	4時間
基礎研修									
看護OSCE	2024年度新規採用看護師	基本的臨床実践能力を客観的に評価し、自己の課題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施し、評価を受ける	OSCE(客観的臨床能力試験)	2025年1/21(火) ～1/24(金) 9:10～16:30	教育委員が評価表に基づいて行う	中央診療棟3階 演習室1～3、シミュレーション室1	50人	25時間
新人看護師のスキルアップ研修	2024年度新規採用看護師	1)1年間の振り返りと2年目への目標設定ができる 2)専門職業人として自分自身の課題を認識し課題に取り組むことができる	1)看護師1年間の自分の看護業務、看護ケアの展開について振り返る 2)2年目に向けた自分自身の課題と目標を明確にする	講義 グループワーク	3/7(金) 13:30～16:30	日本看護キャリア開発センター江藤節代先生	東病棟12階多目的ホール	50人	3時間

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類
 4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】

研修名	期間（令和6年4月～令和7年3月）	実施回数	参加人数	備考
採用職員研修	令和6年4月2日～令和6年4月4日	2	2名	入職時部内オリエンテーション
	令和7年1月6日～令和7年4月10日			
ISO集合教育	令和6年6月20日、令和6年6月26日	2	50名	ISO15189に関する研修会
	令和6年12月17日～令和6年12月25日			
危機管理訓練	令和6年5月3日～令和7年2月25日	2	60名	災害等危機管理に関する研修会
検査業務習得トレーニング	令和6年4月1日～令和7年3月31日	17	17名	検査業務に関するトレーニング
生化学時間外トレーニング	令和6年9月9日～令和6年9月20日	1	37名	時間外生化学検査業務の再トレーニング
血液時間外トレーニング	令和6年8月26日～令和6年9月10日	1	34名	時間外血液検査業務の再トレーニング
緊急輸血対応トレーニング	令和5年8月26日～令和6年9月6日	1	35名	時間外輸血検査業務の再トレーニング

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修
高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

【中央放射線部】

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
救急医療に関する研修（実技）	令和7年2月27日	1回	技師3名、看護師7名、呼吸器内科医師6名	透視室での患者急変時シミュレーション訓練（クライオバイオブシーのドライランを含む）
救急医療に関する研修（実技）	令和6年4月3日 令和6年10月7日 令和6年11月19日	3回	技師12名、看護師11名、放射線科医師8名 技師13名、看護師15名、放射線科医師9名 技師9名、看護師8名、放射線科医師10名	MRI患者急変時対応シミュレーション訓練
救急医療に関する研修（実技）	令和6年12月6日	1回	技師13名、看護師11名、放射線科医師8名	造影CT患者急変時シミュレーション訓練
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年8月20日	1回	技師2名	VMAT TBIの導入に向けた研修
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年10月1日	1回	医師5名、技師7名	AIを駆使した放射線治療計画支援装置の開発に関する研修
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年11月6日	1回	技師7名	日本放射線技術学会秋季学術大会参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年11月15日	1回	技師8名	日本放射線治療専門技師認定機構 RTT九州2 参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年11月26日	1回	医師5名、技師8名	第37回日本放射線腫瘍学会学術大会参加報告
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和6年12月10日	1回	技師8名	熊本放射線治療物理・技術研究会の参加報告
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和7年1月28日	1回	技師8名	第18回南九州地域放射線治療技術合同研究会参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和7年2月7日	1回	医師4名、技師4名	RALS治療に関する勉強会、意見交換会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和7年2月18日	1回	技師9名	日本放射線外科学会参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和7年3月3日	1回	技師8名	システム研究会参加報告会
高精度放射線治療に関する研修（講義）	令和7年3月24日	1回	技師11名	密封小線源治療安全講習会参加報告会・研修

2024年度 医療機器安全使用のための研修会 受講状況

医療機器安全管理責任者 平田直之

別紙(5)

研修開催月	研修内容	定期/不定期	e-leaning受講状況						受講者数(受講率)
			麻酔科 ME機器センター	20/20 集中治療部 東11(看)	中央手術部 26/26 西9(看)	3/3 救急部 26/26 西5(看)	5/5 集中治療部 29/29 東6(看)	4/4 循環器内科 27/27 SCU(看)	
2024.05	除細動器	定期	麻酔科 ME機器センター	30/30					84名 100.0%
2024.06	人工呼吸器	定期	集中治療部 心臓血管外科	4/4 心臓血管外科	ICU(看) 5/5	ICU(看) 21/21	ICU(看) 29/29	CCU(看) 東6(看)	15/15 219名 100.0%
2024.07	人工心肺装置	定期	心臓血管外科 心臓内科	21/21	中央手術部 13/13 集中治療部 心臓内科	3/3 NICU(看) 6/6	中手(看) 25/25 NICU(看)	17/17 ME機器センター	30/30 123名 100.0%
2024.08	閉鎖式保育器	定期	小児科 ME機器センター	30/30					
2024.09	血液浄化装置	定期	腎臓内科 ICU(看)						46名 100.0%
2024.11	除細動器	定期	集中治療部 小児科 ME機器センター	13/13 18/18 24/24	心臓血管外科 NICU(看) ME機器センター	4/4 38/38 ME機器センター	心臓血管外科 ICU(看) 24/24 ME機器センター	中手(看) 14/14 CCU(看) 30/30	60/60 中放(看) 24/24 236名 100.0%
2024.12	人工呼吸器	定期	心臓血管外科 循環器内科 ME機器センター	29/29	心臓血管外科 16/24 循環器内科 28/28	3/3 NICU(看) 4/4	心臓血管外科 ICU(看) 4/4	西8(看) 14/14 CCU(看)	21/21 111名 100.0%
2025.01	補助循環	定期	心臓血管外科 循環器内科 ME機器センター						15/15 108名 93.1%
2025.02	閉鎖式保育器	定期	産科 ICU(看)	21/21	西7(看) 25/25 MFICU(看)			ME機器センター 11/11	28/28 87名 100.0%
2025.03	血液浄化装置	定期	腎臓内科 集中治療部 ICU(看)	6/6 4/4				ME機器センター 38/38	29/29 77名 100.0%

2024年度 医療機器安全使用のための研修会 受講状況

医療機器安全管理責任者 平田直之

別紙(5)

研修開催月	研修内容	定期/不定期	e-leaning受講状況						受講者数(受講率)
			麻酔科 ME機器センター	20/20 集中治療部 東11(看)	中央手術部 26/26 西9(看)	3/3 救急部 26/26 西5(看)	5/5 集中治療部 29/29 東6(看)	4/4 循環器内科 27/27 SCU(看)	
2024.05	除細動器	定期	麻酔科 ME機器センター	30/30					84名 100.0%
2024.06	人工呼吸器	定期	集中治療部 心臓血管外科	4/4 心臓血管外科	ICU(看) 5/5	ICU(看) 21/21	ICU(看) 29/29	CCU(看) 東6(看)	15/15 219名 100.0%
2024.07	人工心肺装置	定期	心臓血管外科 心臓内科	21/21	中央手術部 13/13 集中治療部 心臓内科	3/3 NICU(看) 6/6	中手(看) 25/25 NICU(看)	17/17 ME機器センター	30/30 123名 100.0%
2024.08	閉鎖式保育器	定期	小児科 ME機器センター	30/30					
2024.09	血液浄化装置	定期	腎臓内科 ICU(看)	13/13 集中治療部 小児科	4/4 集中治療部 13/13 集中治療部 小児科	29/29	29/29 GCU(看)	12/12 西8(看)	21/21 107名 100.0%
2024.11	除細動器	定期	集中放(技師) ME機器センター	24/24					46名 100.0%
2024.12	人工呼吸器	定期	小児科 ME機器センター	18/18 心臓血管外科 ME機器センター	3/3 NICU(看) 29/29	26/26 GCU(看)	14/14 中手(看)	14/14 西8(看)	24/24 236名 100.0%
2025.01	補助循環	定期	循環器内科 ME機器センター	16/24 心臓血管外科 28/28	5/5 集中治療部	4/4 ICU(看)	60/60 中放(看)	15/15 西8(看)	21/21 111名 100.0%
2025.02	閉鎖式保育器	定期	産科 ME機器センター	21/21	西7(看) 25/25 MFICU(看)	11/11 ME機器センター	40/40 CCU(看)	15/15 108名 93.1%	28/28 87名 100.0%
2025.03	血液浄化装置	定期	腎臓内科 ICU(看)	6/6 集中治療部 4/4	38/38 ICU(看)	38/38 ME機器センター	29/29		77名 100.0%

2024年度 新規医療機器導入時研修

	開催年月日	医療機器名	講師所属	開催場所	参加人数(名)
1	2024/5/7	カリマ温風式システム	コヴィディエン ジャパン	ICU	4
2	2024/5/7	カリマ温風式システム	コヴィディエン ジャパン	ME機器センター	9
3	2024/5/22	SERVO-U	フクダ電子	ICU	13
4	2024/5/22	SERVO-U	フクダ電子	ICU	
5	2024/5/23	SERVO-U	フクダ電子	ICU	12
6	2024/5/23	SERVO-U	フクダ電子	ICU	
7	2024/5/21	AVVIGO+IVUS	ボストン	血管造影室	7
8	2024/5/22	AVVIGO+IVUS	ボストン	血管造影室	
9	2024/5/24	AVVIGO+IVUS	ボストン	血管造影室	
10	2024/6/21	SERVO-U	フクダ電子	ME機器センター	8
11	2024/9/13	アークティックサン	(株) メディコン	ICU	9
12	2024/12/12	エコー	キヤノン	手術室	2
13	2024/12/12	エコー	キヤノン	手術室	1
14	2024/12/12	エコー	キヤノン	手術室	14
15	2024/12/13	エコー	キヤノン	手術室	1
16	2024/12/13	エコー	キヤノン	手術室	1
17	2024/12/17	インキュアーチ（搬送用保育器）	アトムメディカル（株）	ME機器センター	4
18	2024/12/18	インキュアーチ（搬送用保育器）	ME機器センター	西病棟7階	7
19	2024/12/18	クーデックエイミーPCA	大研医器	ME機器センター	5
				合計	97

開催件数19件 総参加者数97名

2024年度医療機器実機研修会報告

対象機器	実施日(部署)	参加人数
輸液シリンジ シリンジポンプ	5/24(東6)5/27(西5)5/31(東2) 6/5(西11)6/4(西12)6/10(東5) 7/1(東9)7/5(西7) 8/2(東8)8/5(西2)8/14(西2)8/22(西10)	95
除細動器 AED	5/27(東5) 6/10(NICU)6/12(NICU)6/14(NICU)6/14(東6)6/21(西12)6/24(東7)6/24(HCU) 7/11(東10)7/18(西10)7/22(西5)7/25(東2)7/31(東3) 8/3(東8) 9/9(西4)9/13(東2) 10/17(西2)10/24(西2)10/28(東9) 11/21(西7) 1/17(西11)	168
人工呼吸器	6/7(西12)6/7(東2) 7/12(東6)7/16(東11)7/16(東5)7/19(東4)7/19(HCU)7/29(西5) 8/22(東11) 9/6(東3)9/26(東2) 10/8(西4)10/18(東10)10/22(西4) 11/29(西8) 12/10(西8) 12/17(西8)	152
生体情報モニタ	6/12(西2)6/13(西2)6/13(東2)6/24(東5)6/28(東3)6/28(東6)6/28(西12) 7/5(東8)7/18(西10)7/22(東9)7/23(東7)7/23(西7)7/25(東10)7/25(西11)7/26(西4)	121
フットポンプ	6/13(西7)6/14(西12) 7/1(西5)7/5(西10)7/5(東5)7/8(東5)7/5(東6)7/8(西5)7/8(東7)7/12(東2) 8/29(東10) 1/24(西11)	91
閉鎖式保育器	10/18(NICU)10/22(NICU)10/30(NICU)10/30(西7) 12/2(NICU)12/4(NICU)	33
血液浄化	10/7(CCU)	8
補助循環	8/19(CCU)8/26(東5)	18

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 平井 俊範
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、感染制御部長、総合臨床研究部長、薬剤部長、看護部長、各課長（別紙（8）のとおり）

保管場所	管 理 方 法
病院日誌 各科診療日誌 処方せん 手術記録 看護記録 検査所見記録 エックス線写真 紹介状	病院総務課 各診療科 薬剤部 中央手術部 看護部 中央検査部 中央放射線部 各診療科
規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿 高度の医療の提供の実績 高度の医療技術の開発及び評価の実績 高度の医療の研修の実績 閲覧実績 紹介患者に対する医療提供の実績 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿
規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	病院総務課 医事課 医事課 病院総務課 病院総務課 医療サービス課 医療サービス課 医事課 医事課 医事課 医事課
	診療に関する諸記録は、平成22年9月20日以前は紙媒体を原本とし、患者ID番号をもとに患者毎に整備し10年間保管・管理（平成30年度から20年に変更）している。平成22年9月20日以降は電子情報を原則とし、電子保存している。 なお、紙媒体の診療録は院外への持ち出しを禁止している。また、診療、教育・研究の目的で電子カルテの情報が必要な場合は、規則に基づき利用申請を行い、承認されればデータを利用できる仕組みがある。 (特定の端末で許可されたUSBメモリでなければ情報を取り出す事ができない)
	電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。
	電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第一条の十二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。
	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	医事課	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
	医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	ME機器センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
	医療安全管理部門の設置状況	医事課	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	監査委員会の設置状況	病院総務課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課	
	職員研修の実施状況	病院総務課	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	病院総務課 医事課 薬剤部 ME機器センター	
	管理者が有する権限に関する状況	病院総務課	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院総務課	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

R7.10.1現在

管理担当者一覧

診療科長等名	管理者名
呼吸器内科長	坂上 拓郎
消化器内科長	田中 靖人
血液内科長	安永 純一朗
膠原病内科長	安永 純一朗
腎臓内科長	横井 秀基
糖尿病・代謝・内分泌内科長	窪田 直人
循環器内科長	辻田 賢一
脳神経内科長	植田 光晴
総合診療科長	松井 邦彦
心臓血管外科長	福井 寿啓
呼吸器外科長	鈴木 実
消化器外科長	岩楓 政晃
乳腺・内分泌外科長	山本 豊
小児外科長	日比 泰造
移植外科長	日比 泰造
泌尿器科長	神波 大己
婦人科長	近藤 英治
小児科長	中村 公俊
産科長	近藤 英治
整形外科長	宮本 健史
皮膚科長	福島 聰
形成外科長	増口 信一
眼科長	井上 俊洋
耳鼻咽喉科・頭頸部外科長	折田 賴尚
歯科口腔外科長	中山 秀樹
画像診断・治療科長	白石 慎哉
放射線治療科長	大屋 夏生
神経精神科長	牧之段 学
脳神経外科長	武笠 晃丈
麻酔科長	平田 直之
中央検査部長	田中 靖人
中央手術部長	平田 直之
中央放射線部長	大屋 夏生
集中治療部長	平田 直之
中央材料部長	福島 聰
リハビリテーション部長	宮本 健史
病理部長	三上 芳喜
輸血・細胞治療部長	安永 純一朗
救急部長	入江 弘基
感染免疫診療部長	安永 純一朗
腎・血液浄化療法センター長	横井 秀基
総合臨床研修センター長	坂上 拓郎
光学医療診療部長	田中 靖人
高度医療開発センター長	辻田 賢一
地域医療連携センター長	武笠 晃丈
総合周産期母子医療センター長	中村 公俊
がんセンター長	野坂 生郷
ME機器センター長	平田 直之
地域医療支援センター長	松井 邦彦
移植医療センター長	日比 泰造
災害医療教育研究センター長	笠岡 俊志
遺伝診療センター長	中村 公俊
心理支援センター長	藤瀬 昇
医療情報経営企画部長	中村 太志
医療技術部長	吉富 晃子
栄養管理部長	窪田 直人
医療の質・安全管理部長	近本 亮
感染制御部長	中田 浩智
総合臨床研究部長	平井 俊範
薬剤部長	城野 博史
看護部長	山本 治美
総務課長	立山 三雄
経営戦略課長	田邊 豪
経理課長	今福 英助
医事課長	鶴田 博信
医療サービス課長	興梠 由華

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input checked="" type="radio"/> 2) 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 山下 恵太
閲覧担当者氏名	総務課長 立山 三雄
閲覧の求めに応じる場所	・管理棟3階 第二会議室
閲覧の手続の概要 病院事務部(総務課総務担当)へ閲覧の要求を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延 0 件
閲 覧 者 別	医師 延 0 件
	歯科医師 延 0 件
	国 延 0 件
	地方公共団体 延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 熊本大学病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。 また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 ((有)・無)	
・ 開催状況：年13回	
・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理に係る基本方針に関すること (2) 医療安全管理のための具体的措置に関すること (3) 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関すること (4) 本院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適當な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること (5) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること (6) 前号の改善の方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関する事項 (7) 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関すること (8) 本院が提供する医療の向上に関すること (9) その他医療に係る安全管理に関し必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2回
・ 研修の内容（すべて）： 新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について、他職種カンファ、チーム医療）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：患者誤認について、鎮静について等）を実施している。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無)	
・ その他の改善の方策の主な内容： 鎮静は様々な検査及び処置において必要不可欠であるが、同時に危険性が高く、医療事故の原	

因となる。適切な患者評価やモニタリングに関する院内基準として、「検査・処置における安全な鎮静のための院内基準」を作成した。

- ・検査・処置別鎮静手技の届出
- ・説明と同意
- ・検査・処置時の鎮静薬使用に関する考え方
- ・鎮静後の覚醒評価

院内基準作成後は、安全リンクナース会議やリスクマネージャー連絡会議において内容の周知を図った。また、リスクマネージャー自部署監査において医師・看護師全員へ院内基準の理解度の確認を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会、その他の医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する事項の審議 2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議 3. 感染予防に関する事業の企画・実施 4. M R S A等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告 5. 抗M R S A薬適正使用報告 6. 感染制御チーム（I C T）からの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて） : <ol style="list-style-type: none"> 1. (医療系)『正しい CDI 検査について／周術期、術後感染予防抗菌薬の適正使用のための話題』 (事務系)『感染対策の基本 手指衛生新型コロナウイルス感染症の流行は過去のこと？ 今、色々な感染症が流行しています』 2. (医療系)『理解だけでなく実践していますか？ 日常の手指衛生／抗菌薬使用量を減らしましょう』 (事務系)『感染症の多い季節がやってきた！-かかるない・ひろげない予防が大切です-』 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなる I C T を組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 · <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
・ 研修の主な内容 :	
【院内研修】	
(1) 令和6年4月2日 「2024年度度新規採用職員研修 「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」・ 407名（新採用職員、必須科目はWEB研修）	
(2) 令和6年4月18日・2024年度新人看護師薬剤基礎研修 「医薬品の基本的特徴を知り、与薬のために必要な情報収集を行うことができる」 66名・看護師	
(3) 「ハイリスク薬の種類を理解し、管理することができる」 66名・看護師	
(4) 令和6年6月14日・2024年度新人看護師薬剤基礎研修 「静脈注射に関連した医薬品の基礎知識を学ぶ」 62名・看護師	
(5) 令和6年7月5日・2024年度新人看護師薬剤基礎研修「内服薬の基本」 56名・看護師	
(6) 令和6年6月26日～7月25日 「令和6年度第1回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」 146名（新採用医師）	
(7) 令和6年5月「看護師特定行為研修・臨床薬理学演習」 16名・看護師	
(8) 令和6年7月1日～7月31日 2024（令和6）年度前期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会 「未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について」 「周術期、術後感染予防抗菌薬の適正使用のための話題」・ 1518名/（全職員）	
【病棟別等の対象限定での研修】	
(1) 令和6年6月20日「ハイリスク薬剤に関する知識教育」（対象：西病棟6階看護師17名）	
(2) 令和6年8月2日「向精神薬の取り扱いについて」（対象：東病棟7階看護師10名）	
(3) 令和6年10月24日「糖尿病とお薬」8名（対象：熊本県糖尿病協会熊本大学分会会員）	
(4) 令和6年12月3日「消化器外科化学療法について」（対象：東病棟4階看護師17名）	
(5) 令和7年1月23日「レミフェンタニルについての勉強会」（対象：西病棟6階看護師9名）	
(6) 令和6年9月～12月「院内ハイリスク薬勉強会」全病棟で開催 参加人数458名（看護師） 薬剤部55名（薬剤師）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 <input checked="" type="radio"/> (有) · <input type="radio"/> 無)	
・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容 :	
医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命（平成19年4月）し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。『医薬品の安全使用のための業務手順書』（以下、業務手順書）は平成19年7月に作成した。	
令和7年5月に、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した（第21版）。今回の改訂内容については以下の通りである。	

令和7年 5月21日改正（第21版）

熊本大学病院医薬品の安全使用のための業務手順書 第21版への改定

改定箇所（ページは見え消し版）

ページ	章	節	内容
3	2	3	図1 医薬品の院内採用申請から処方開始までのフロー挿入
4	3	2 (3)	紙の出納表廃止→PC管理
	3	2 (4)	図2 医薬品の院内在庫管理フロー挿入
8	7	4	院内製剤リストの追加
9	8	1 (2)	実情に合わせて訂正、「看護部 医療安全対策マニュアル」挿入
	8	1 (2)	常備薬の「定期的見直し」と「総入れ替え」の頻度を明確化
10	10	1 (2)	薬アレルギー登録を商品名で行うことを明記
11	10	2 (2)	「医療安全管理マニュアル 第11版から第12版へ改訂」以下同様
	10	3	添付文書の検索方法を図3含め、追記 以下同様
12	10	4 (2)	委員会名称変更に伴う訂正 以下同様
	10	4 (3)	「調剤内規 第19版から第20版へ改訂」以下同様
13	10	7	「外来化学療法センター薬剤師業務マニュアル 第2版から第3版へ」
14	11	2	理解しやすくなるよう訂正・追記
15	11	6	医療安全管理マニュアルの章を挿入（他記載に統一）
18	14	1 (2)	実情に合わせた訂正
18-20	14	1 (2)	実施例（カリウム補正の取り決め事項）を追記
20-22	14	2 (1-6)	運用変更（医療行為等適応審査委員会での情報一元管理）に伴う改定
25	16	1	薬物血中濃度測定フロー挿入
26	17	3	院内の副作用報告手順挿入
	18		記載ミス（「s」は不要）を訂正
28	20	7	実情を具体的に記載
29	20	7	図4 当院指定のハイリスク薬リスト挿入
30	附則		改定歴他の更新

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有) · 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：
- ・ その他の改善の方策の主な内容：

- 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室、病棟薬剤業務における疑義照会事例および医薬品情報室にあった質疑応答事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会にその状況等を報告しており、院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている。
- 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新（毎月1回更新）の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板“医薬品情報”にも掲示している。
- 3) 調剤（注射剤調剤を含む）に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミスを回避し安全性を

確保するため、注射用抗がん剤に対する処方は専用のレジメンオーダリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。

4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング（TDM）による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。

5) 未承認新規医薬品については、「本院で使用したことのない医薬品であって、『医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律』における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤（分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む）する際には、未承認医薬品の使用が医療行為等適応審査委員会の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（担当薬剤師）は未承認新規医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドラインVer. 2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または医療行為等適応審査委員会への申請依頼を行っている。

6) 令和6（2024）年度の新規取組み事項

- (1) 2024年5月9日に、院内医薬品情報誌にて「健康食品とサプリメントについて」を作成し、使用上の注意点や有害事象等に関する情報共有を行った。
- (2) 2024年5月に、「不眠時導入薬」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）を策定し、紙媒体およびガルーン掲載による推奨薬リストの周知、処方オーダ時のポップアップ改修等などの対応を行った。
- (3) 2024年5月に、フェスゴ配合皮下注レジメン登録において、従来の皮下注製剤と異なり投与部位が大腿部のみに限定される薬剤であるため、大腿部以外に投与しないようコメントを追加してレジメン登録を行った。
- (4) 2024年7月に、「成人におけるARB（高血圧症）」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価・策定した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）の再評価を行い、推奨薬リストの見直し、処方オーダ時のポップアップ変更等などの対応を行った。
- (5) 2024年7月11日に、院内医薬品情報誌にて「PPIおよびP-CAB製剤の経管投与について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (6) 2024年7月に、院内統一救急カードから「ジアゼパム注射液10mg」（第3種向精神薬）を除外し、病棟常備薬も必要最小限とするよう配置を見直し、抗菌薬の常備配置は原則不可とし、常備薬として抗菌薬を配置する場合、抗菌薬常備配置申請書を提出する運用へ変更した。
- (7) 2024年8月に、ソルコートエフ過量投与のインシデントを受け、ソルコートエフ500mgには【ショック・喘息】と薬剤名に表示を追加するとともに上限量の設定を行い、投与単位を「瓶」⇒「mg」と変更し、誤処方対策を行った。
- (8) 2024年9月12日に、院内医薬品情報誌にて「高カリウム血症治療薬の経管投与について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (9) 2024年10月10日に、院内医薬品情報誌にて「せん妄を起こしやすい薬剤について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (10) 2024年11月に「抗凝固薬投与中の硬膜外カテーテル抜去タイミングの目安」の改訂を行った。

- (11) 2024年12月12日に、院内医薬品情報誌にて「喫煙と薬の相互作用について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (12) 2024年12月から、妊婦に対して禁忌である新型コロナウイルス感染症治療薬（ラゲブリオ・ゾコーバ）について、オーダー時に注意喚起のポップアップおよびメーカー作成のファイルが参照できるよう設定し安全対策を実施した。
- (13) 2025年1月6日に、薬剤部にて調製・支給する脳脊髄腔（腰椎）手技の抗がん剤シリジのキャップを通常のシリジキャップから閉鎖式のネオシールドレバーロックへ変更し、抗がん剤の汚染や操作者の曝露対策を行った。
- (14) 2025年2月に、「G-CSF製剤」に関して有効性、経済性並びに安全性の観点から評価・策定した院内標準的薬物治療指針（院内フォーミュラリ）の再評価を行い、推奨薬リストの見直し、処方オーダ時のポップアップ変更等などの対応を行った。
- (15) 賦形ミスによる過量内服のインシデントを受け、チューブ通過性や供給状況等の情報を確認し、医師と協議の上、バルプロ酸ナトリウムシロップ → バルプロ酸Na細粒への院内採用薬の変更を行った。
- (16) フラジール内服錠にフラジール腔錠を調剤し、支給するインシデントが発生したため、調剤間違え防止対策として、オーダ名称を【フラジール【内服錠】250mg】、【フラジール腔錠250mg（外用）】に変更した。
- (17) 昨年より継続して、治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング（TDM）による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正使用を行うように医師に対して周知徹底を図っている。
- (18) 薬剤部での「プレアボイド報告実施要領」を策定し、運用を継続し、2024年度は99件のプレアボイド報告を行った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 115回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> * <u>新規導入機器については、基本的操作方法と操作上の注意点を内容とする</u> <u>【新規医療機器導入時研修】</u> 19件の開催 97名の参加 (別紙(6)のとおり) * <u>高度医療機器についてはe-learning研修にて、操作上の注意点・インシデントとして報告された事例・安全情報で周知された内容等を内容とする</u> (人工心肺装置及び補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器) 使用する部署の医師・研修医・看護師・医療技術職員を対象とし、対象者の受講100%を目指す <u>【高度医療機器 定期研修】</u> 4・9月以外の毎月開催 1198名の参加 (別紙(4)のとおり) * <u>研修が必要だと判断した医療機器については、各病棟へ臨床工学技士が出張し実機での研修を実施する</u> 基本的操作と便利な機能や使用上の注意点・使用者からの相談を内容とする <u>【実機における研修】</u> 86件の開催 686名の参加 (別紙(7)のとおり) 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (有)・無) 機器ごとの保守点検の主な内容 : <p>医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、医療機器安全管理専門委員会にて承認された後、ME機器センター臨床工学技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。</p> <p>保守点検実施状況は、実働報告として臨床工学技士長より医療機器安全管理責任者へ報告し、医療機器安全管理責任者は毎月開催される医療安全管理委員会に提出されている。</p> <p>上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 	

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

医療の質・安全管理部へ臨床工学技士が1名兼任している。

医療機器に関する安全情報については、医療の質・安全管理部を兼務する臨床工学技士G RMならびに臨床工学技士長がPMDAナビ等を利用し情報収集を行い共有している。対象機器があった際には、臨床工学技士G RMよりリスクマネージャー会議や部署リスクマネージャーへの直接の情報提供を行い、医療機器安全管理責任者に報告し、医療の室・安全管理委員会へ報告している。

昨年度、医療機器安全管理マニュアルを作成し、基本的操作や機器管理・操作に必要な事項を記載し、各機種の添付文書が簡単に閲覧できるようQRコードを掲載しているため各部署で活用している

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況	
<p>管理者を議長として毎週開催される「医療安全対策に関するカンファレンス」及び毎月開催される「医療の質・安全管理委員会」のメンバーとして医療安全管理責任者をはじめ、医療安全管理部門の医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者が出席しており、各所掌事項の報告や検討事項について情報を共有している。特に組織横断的に病院全体での検討が必要な事項等においては、医療安全管理責任者と相談した上で、医療の質・安全管理委員会に諮り審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (11名) <input type="radio"/> 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況	
<p>○医薬品の安全使用のために必要となる医薬品の使用状況の確認及び関連情報の整理 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（担当薬剤師）は、病院情報システムから得られたデータ、薬剤部疑義照会システムに記録されたデータ並びに薬剤部病棟業務カンファレンスで報告された事例等を基に、院内における医薬品の使用状況を月1回定期的に確認している。その結果を踏まえて、医薬品安全管理責任者は、重要な添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、適応外使用・禁忌医薬品使用・未承認医薬品使用（「適応外使用」、「禁忌医薬品使用」及び「未承認医薬品等」の医薬品安全管理に係る情報）を確認・整理している。</p>	
<p>○医薬品の適正使用に係る情報の院内周知及び周知状況の確認 医薬品安全管理責任者は、担当薬剤師より報告された情報を医療安全管理委員会へ報告し、本委員会の判断の下に、必要に応じて医療安全管理部より院内全体に対し医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知している。“リスクマネージャー連絡会議の通達内容”および日本医療機能評価機構から発信される“医療事故情報収集等事業・医療安全情報”については、院内各部署に書面で配付し、署名にて周知状況を確認している。また、全職員が把握しておくべき医療安全・感染・薬剤に関する情報については令和6年6月よりガルーンTOP画面に「重要なお知らせ」として掲載し、閲覧状況を確認している。</p>	
・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況	
<p>○適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報収集と確認 適応外使用及び禁忌医薬品使用についての情報は、医療行為等適応審査委員会で一元管理する。薬剤部は、適応外使用及び禁忌医薬品使用を把握した時点で処方医に疑義照会し、使用的確認を行う。また、その必要性を充分考慮した上で漫然と投与されることがないよう注意し、使用された場合は医薬品安全管理責任者に指名された薬剤師に報告する。室長は医薬品使用状況確認表で月1回当該使用の報告を行う。使用前であれば、医療行為等適応審査委員会の審議を経て薬剤使用の適否を判断する。</p>	

○未承認医薬品の使用状況の確認

本院で未承認新規医薬品を医師が使用する場合は、未承認新規医薬品等評価委員会及び医療行為等適応審査委員会へ申請後、審議を経た後に結果通知が医療の質・安全管理部から薬剤部長へ伝達されることにより確認している。また、医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師がそれぞれの担当業務（調剤業務、製剤業務、病棟薬剤業務等）で使用状況を把握した場合は、医薬品使用状況確認表で医薬品安全管理責任者へ報告し、病棟業務カンファレンス、業務連絡会議等にて情報収集並びに共有を図っている。

また、使用状況は医療安全管理委員会に報告している。

- ・担当者の指名の有無 (有)・無)

- ・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有)・無

- ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無)

- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
：各科監査担当医師、及び診療情報管理士が毎月実施する診療録記載監査の中から、患者への説明記録及び同意取得に関する結果をまとめて、院内諸会議にて報告している。またリスクマネージャー会議においても同結果をもとに、部署リスクマネージャー等を通じて規定の遵守について指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

(有)・無

- ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

(1) 毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告

実施者：監査担当医師約 224 名、診療情報管理士 8 名

量的点検：全入院診療録（入院診療計画書、退院時サマリ、手術記録、診療記録等）

医学管理料等及び質的点検：入院診療録 約 250 例／月平均、外来診療録 200 例／月

(2) 監査の集計結果について院内諸会議及び診療科（監査担当医師）へ報告、院内グループ会議内フォルダに掲載し公表する。監査結果の不備について主治医宛に症例別報告書に通知し、必要に応じ直接担当医師へ連絡する。

(3) 放射線検査及び病理検査の全報告書の既読状況について、毎週、各診療科へ報告、毎月、医療の質・安全管理部へ報告する。未読について医療の質・安全管理部が確認と指導を行う。

(4) 入職時のオリエンテーションにて「診療録等記載マニュアル」（本院作成）をもとに、診療録の記載の原則及び運用上のルール等を説明している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

(有)・無

- ・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（19）名

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（9）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容 :

- (1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること
- (2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること
- (3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること
- (4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関すること
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること
- (6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関すること
- (7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関すること
- (8) 医療安全管理マニュアルに関すること
- (9) 熊本大学病院医療の質・安全管理委員会に係る事務に関すること
- (10) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例 :

- ・手術室、内視鏡室、造影室、透視室のタイムアウト巡回、病棟の人工呼吸器巡回をGRMで実施した。結果はすべて部署にフィードバックした。
- ・画像診断所見と病理診断所見確認システムを導入しており、各診療科に結果をフィードバックした。また、令和元年度から、画像診断所見における、依頼内容以外の重要所見について診療の進捗を確認し主治医へフィードバックしている。重要なインシデントは発生していない。
- ・令和5年1月から、診療科により安全な手術を再認識してもらうことを目的とし、医療の質・安全管理部において、手術から24時間及び7日以内に行った再手術のモニタリングを開始し、毎月のモニタリング結果を該当の診療科へ通知している。
- ・令和5年6月から、中央検査部より算出された診療科毎のパニック値に基づき、医療の質・安全管理部がカルテ上で確認している。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例 :

- 「医療安全のための講演会」の受講状況について隨時把握し、未受講者についてはeラーニングを受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（（有・無））
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（（有・無））
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること
 - (2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規医療技術提供審査結果通知書により通知すること
 - (3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること
 - (4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと
 - (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること
 - (6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（（有・無））
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（（有・無））

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（（有・無））
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（（有・無））
- ・活動の主な内容：
 - (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること
 - (2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること
 - (3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること
 - (4) 未承認新規医薬品等の適正な手続きに基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと

- (5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき及び前号の従業者の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること
(6) 未承認新規医薬品等評価委員会に係る事務を行うこと

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 209 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 30 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 報告の実施状況（発生内容や頻度、その後の患者の転帰等）の確認と、確認結果の管理者への報告
 2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：名古屋大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：京都大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

（助言）

- ・インシデント報告用の公用携帯電話の担当を分散することの検討
- ・禁忌・適応外使用について、医師から事前申請や報告される運用の検討
- ・未承認新規医薬品等の使用に際して、担当部門・評価委員会に申請する項目に「使用する医師・歯科医師の制限」の追加を検討すること。
- ・高難度新規医療技術における長期的（遠隔期）モニタリングの実施時期については、提供する医療ごとに判断することも検討すること。
- ・高難度新規医療技術提供の際の説明には医師以外の同席を必須とすること。
- ・監査委員会について、3人以上又は代理を立てる体制を検討すること。

（改善状況）

- ・インシデント報告用公用携帯の分散、高難度新規医療技術のモニタリング実施時期の検討、説明時の医師以外の同席について対応を行った。
- ・公用携帯は、医療の質・安全管理部看護師 GRM で持ち回って担当している。

- ・高難度新規医療技術は、モニタリング実施時期を術式毎に承認の際に決定するようにした。
- ・高難度新規医療技術の説明時に看護師の同席を必須とすることを承認要件とし、同意書に看護師の同席、サインを必須とした。
- ・その他指摘事項については引き続き検討中である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な伝達事項（例：高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供について）や、インシデントに関連したテーマの講演会（例：患者誤認について、鎮静について等）を実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：令和6年度第2回 特定機能病院管理者研修[新規] (R7.1.15) 受講済

医療安全管理責任者：令和6年度第6回 特定機能病院管理者研修[継続] (R7.2.14) 受講済

医薬品安全管理責任者：令和6年度特定機能病院管理者研修[継続]未受講

※現管理者についてはR7.12.22に受講予定

医療機器安全管理責任者：令和6年度第6回 特定機能病院管理者研修[継続] (R7.2.14) 受講済

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3(3rdG:Ver.3.0)の更新審査を令和6年8月に受審し、令和7年3月に「条件付き認定」となっている。「認定」を受けるため、令和7年9月に確認審査（書類審査）を受審しており、審査中である。

・評価に基づき改善のために講すべき措置の内容の公表状況

熊本大学病院ホームページにて病院機能評価審査結果報告書（2024年度実施）を公表している。

掲載箇所 : <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/kuh/28.html>

・評価を踏まえ講じた措置

令和6年8月受審後に改善項目として指摘された事項については、院内会議体等で共有するとともに定期的に各事項の改善状況の管理を行い、課題解決を図った。当院の課題解決の状況については、令和7年8月に医療機能評価機構へ書類を提出し、確認審査を受審中である。

また、改善項目として指摘された事項以外で、課題として改善活動を推奨された事項についても、院内会議体等で共有するとともに、課題管理表を作成し、定期的に改善状況の管理を行っている。現時点で概ね課題解決が図られており、残りの課題についても課題解決に向けて、改善活動と進捗管理を行っているところである。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
・ 基準の主な内容	医師免許を有し、医療法（昭和23年法律第205号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者 1. 医療安全管理業務に対する知見・経験 2. 病院の管理運営・経営に必要な能力 3. 熊本大学病院に求められるミッションの遂行
・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ <input type="checkbox"/> ）	
・ 公表の方法	国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・ <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無 <input type="radio"/>
				有・無 <input type="radio"/>
				有・無 <input type="radio"/>
				有・無 <input type="radio"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="radio"/> ・ 無					
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項 						
<ul style="list-style-type: none"> ・審議の概要の従業者への周知状況 院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知 						
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・ 無） 						
<ul style="list-style-type: none"> ・公表の方法 熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表 						
<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="radio"/>・ 無） 						
合議体の委員名簿						
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職			
平井 俊範	○	医師	病院長、総合臨床研究部長			
坂上 拓郎		医師	副病院長、呼吸器内科長、総合臨床研修センター長			
田中 靖人		医師	副病院長、消化器内科長、中央検査部長、光学医療診療部長			
安永 純一朗		医師	血液内科長、膠原病内科長、輸血・細胞治療部長、感染免疫診療部長			
横井 秀基		医師	腎臓内科長、腎・血液浄化療法センター長			
窪田 直人		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長			
辻田 賢一		医師	副病院長、循環器内科長、高度医療開発センター長			
植田 光晴		医師	脳神経内科長			
松井 邦彦		医師	総合診療科長、地域医療支援センター長			
福井 寿啓		医師	副病院長、心臓血管外科長、中央手術部長			
鈴木 実		医師	呼吸器外科長			
岩槻 政晃		医師	消化器外科長			
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長			
日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長、移植医療センター長			
神波 大己		医師	副病院長、泌尿器科長			

近藤 英治		医師	産科長、婦人科長
中村 公俊		医師	小児科長、総合周産期母子医療センター長、遺伝診療センター長
宮本 健史		医師	副病院長、整形外科長、リハビリテーション部長
福島 聰		医師	皮膚科長、中央材料部長
増口 信一		医師	形成外科長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 賴尚		医師	病院長特別補佐、耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	歯科口腔外科長
白石 慎哉		医師	画像診断・治療科長
大屋 夏生		医師	放射線治療科長、中央放射線部長
藤瀬 昇		医師	神経精神科長、心理支援センター長
武笠 晃丈		医師	副病院長、脳神経外科長、地域医療連携センター長
平田 直之		医師	副病院長、麻酔科長、集中治療部長、ME機器センター長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	病院長特別補佐、救急部長
中村 太志		医師	副病院長、医療情報経営企画部長
城野 博史		薬剤師	薬剤部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長
野坂 生郷		医師	がんセンター長
吉武 淳		医師	緩和ケアセンター長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
吉富 晃子		臨床検査技師	医療技術部長
近本 亮		医師	副病院長、医療の質・安全管理部長
中田 浩智		医師	病院長特別補佐、感染制御部長
山下 恵太		事務職員	副病院長、病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）

- 公表の方法

熊本大学規則集システムによる公表

- 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「熊本大学学則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」、「病院の管理及び運営に必要な病院の人事(学長の選考開始の許可を必要とするものを除く。)及び予算執行の権限を有する。」と規定されている。また、病院長は、病院経営担当の副学長として任命されており、熊本大学学則の規定に基づき、学長を助け、命を受けて校務(病院経営等)をつかさどっており、開設者である学長から当該校務に係る権限を与えられている。

- 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割

- 副病院長：病院長の職務の一部を補佐

- 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」において、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。

また、新たなセンター等の組織の設置や中期目標・中期計画の推進等、病院運営における重要事項を検討するWGやPTの座長に副病院長を指名し、副病院長のマネジメント力のスキルアップを図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無																								
<ul style="list-style-type: none"> ・監査委員会の開催状況：年2回 ・活動の主な内容： <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p> ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・委員名簿の公表の有無（有・無） ・委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法： <p>熊本大学ホームページによる公表</p> 																									
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>所属</th> <th>委員長 (○を付す)</th> <th>選定理由</th> <th>利害関係</th> <th>委員の要件 該当状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>後 信</td> <td>九州大学病院 医療安全管理部</td> <td>○</td> <td>医療安全に関する 識見を有する者</td> <td>有・無</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>森高 啓喜</td> <td>森高・吉見法律事務所</td> <td></td> <td>法律に関する識見 を有する者</td> <td>有・無</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>木崎 千恵子</td> <td>一般社団法人 日本癌治療学会</td> <td></td> <td>医療を受ける者その他の医療従事者 以外の者</td> <td>有・無</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	後 信	九州大学病院 医療安全管理部	○	医療安全に関する 識見を有する者	有・無	1	森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する識見 を有する者	有・無	1	木崎 千恵子	一般社団法人 日本癌治療学会		医療を受ける者その他の医療従事者 以外の者	有・無	2
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況																				
後 信	九州大学病院 医療安全管理部	○	医療安全に関する 識見を有する者	有・無	1																				
森高 啓喜	森高・吉見法律事務所		法律に関する識見 を有する者	有・無	1																				
木崎 千恵子	一般社団法人 日本癌治療学会		医療を受ける者その他の医療従事者 以外の者	有・無	2																				

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<ul style="list-style-type: none">・体制の整備状況及び活動内容<p>熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。 熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。</p>・専門部署の設置の有無（（有）・無）・内部規程の整備の有無（（有）・無）・内部規程の公表の有無（（有）・無）・公表の方法 <p>熊本大学ホームページによる公表</p>

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に 係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">・病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況<p>外部有識者を含めた8名の委員で構成する熊本大学病院アドバイザリー会議を設置しており、令和6年度の会議を令和7年1月16日に開催した。 同会議において、病院経営の課題と戦略、大学病院改革プラン、医師の働き方改革に係る取組、職員の処遇改善、各職種の増員、診療業務の改善、患者サービス向上に関する取組、地域医療連携体制強化の取組、教育・研究機能強化の取組等について意見交換が行われた。</p>・会議体の実施状況（年1回）・会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年1回）・会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）・公表の方法			
熊本大学ホームページによる公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：熊本大学病院アドバイザリー会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係 (有・無)
富澤 一仁	理事・副学長	○	有・無
笠原 慶久	株式会社肥後銀行 代表取締役頭取 熊本経済同友会代表幹事		有・無
竹内 信義	熊本県副知事		有・無
倉津 純一	桜十字病院理事長・院長		有・無
本松 賢	株式会社テレビ熊本・取締役会長		有・無
中尾 浩一	済生会熊本病院院長		有・無
福田 稲	熊本県医師会会长 医療法人社団 愛育会 福田病院 理事長		有・無
馬場 秀夫	一般財団法人化学及血清療法研究所理事長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・<input type="radio"/>）・通報件数（年 0 件）・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>・<input type="radio"/>）・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>・<input type="radio"/>）・周知の方法 当院ホームページ及び院内専用ネットワーク、また医療安全管理マニュアルに各種窓口等の情報を掲載すると共に、院内研修会（新採用職員研修等）で周知を図っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
<p>本院ホームページ、公式SNS、熊大病院ニュース（年2回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。</p> <p>また、本院の魅力を端的かつインパクトのある映像で伝えるために、建物・診療風景等の映像や職員へのインタビューを加えて誰にでもわかりやすく病院の魅力や各診療科等の取り組み等を伝えることができる番組やプロモーション動画の作成を行っている。番組については令和6年度よりテレビにて放送を行い、プロモーション動画については熊本大学病院ホームページ内に掲載を行った。</p> <p>なお、地元メディア等からの取材依頼に積極的に応じ、熊本県で唯一の特定機能病院として、その果たすべき役割について地域に広く情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
<p>当該科からのコンサルテーション依頼に基づき、他の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。</p>	